

ラスベガス 旅行記

コロナトラブル編

2021



帰国手続きを失敗して
アメリカを横断しました

帰国時に起こるトラブルを想像もせず
楽しさ一杯だったラスベガス滞在 2 日目の筆者



目次

[この本について](#)

PART1 出国準備編

[コロナ禍によって海外旅行ができなくなりました](#)

[ワクチンパスポートの取得](#)

[ワクチン2度打ちと接種証明書の取得](#)

[パスポートの再取得](#)

[ワクチンパスポートを取得](#)

[そうだ、ラスベガス、行こう](#)

[ラスベガス行きの計画立案](#)

[「アメリカ横断ウルトラクイズ」の帽子](#)

[帰国日を前倒しする](#)

[ハワイアン航空の前日便にプラン変更](#)

[ハワイアン航空が強制キャンセル](#)

[結局、帰国日を2日前倒しする](#)

[陰性証明書の取得計画を立てる](#)

[米ドルの確保](#)

[デルタ航空の重複した予約のキャンセル](#)

[出国前 PCR 検査と陰性証明書の取得](#)

[「アメリカ横断ウルトラクイズ」の帽子組み立て](#)

[2021年11月17日（水） 出国の日](#)

[羽田空港に到着](#)

[たのしいラスベガス旅行の始まり](#)

2

PART2 米国コロナ対策編

[米国の入国時チェック](#)

[ラスベガス市内でのコロナ対策](#)

[飛行機の中でのコロナ対策（デルタ航空）](#)

[MTG Vegas でのコロナ対策](#)

[MTG Vegas 大会中のコロナ対策](#)

7

PART3 帰国トラブル編

9

[2021年11月21日（月）いよいよ帰国](#)

11

[IC Labs が移転していました](#)

12

[検査をやっている薬局を知る](#)

13

[別の支店を探して歩く](#)

13

[目的地の薬局に到着](#)

16

[コロナ検査の申し込み](#)

17

[プレミアム・アウトレット・ノースへ](#)

18

[ホテルに戻る](#)

20

[検査ツアーの存在](#)

21

[空港のPCR検査](#)

21

[QRコード](#)

23

[チェックイン終了](#)

24

[さらばラスベガス](#)

24

[エッグロールの夕食](#)

25

[有料ラウンジへ](#)

[深夜の時間つぶし](#)

2021年11月23日（火） マッカラン空港の朝食	45	機内で渡された宣誓書	62
シアトル搭乗前の書類チェックに失敗	46	降機チェック	62
これからの帰国手順	48	再度の国リスト	63
デトロイト経由の羽田行きをリブック	49	検査場への誘導	63
ダブルツリーホテルへ	49	QRコードの確認	63
Discovery Healthへ	51	宣誓書の手交	63
検査を受ける	51	スマホの設定確認	64
セキュリティーチェックに引っかかる	54	書類審査の完了	64
シアトルの空港ラウンジへ	55	PCR検査	66
軽食と睡眠	55	検査結果待ち	66
まずはデトロイトへ	57	入国	67
2021年11月24日（水） デトロイト行きの機内	58	荷物回収	68
デトロイトの朝食	58	帰宅	68
羽田行きに搭乗できることの確認	59	帰宅後の報告義務	69
羽田行きの帰国便	60		
2021年11月25日（木） 帰国	61	エピローグ	70
入国前のチェック	62	損得計算	72
		あとがき	72

この本について

本書は2021年11月17日（水）～25日（木）に筆者がラスベガスに遊びに行った際の旅行記なのですが、今回に限ってはコロナ（Covid-19、新型コロナ）の世界的流行のために海外旅行に大きな制限が出た結果として様々な事前の準備が必要になり、さらに何よりも**トラブルで帰国できなくなって**1日帰国が遅れたという事態が実際に発生しました（笑）。

この辺のノウハウをまとめることは海外旅行を考える同好の士にとっても意味があると思われたため、これだけを一冊の同人誌にすることにしました。いつものノリでの楽しいラスベガス観光旅行記は、姉妹同人誌の「ラスベガス旅行記 2021（MTG 観光編）」にまとめましたので、是非そちらもあわせてお求めください。

おことわり：本書での記述は執筆時点（2021年11月30日）での事実に基づいておりますが、コロナを巡る状況は日々変化しておりますので、あるいは必要な手続きなどは古くなっている可能性があります。ご自身の渡航の際には、必ず最新の情報でご確認ください。

PART 1

出国準備編



ラスベガスに、行きたいかあっ！

これを組み立てていた時には、本当にアメリカ大陸を横断する羽目になるとは思いませんでした。

コロナ禍によって海外旅行ができなくなりました

もとより筆者はマジック・ザ・ギャザリング（マジック）への海外大会の参加をきっかけとして10年くらい前から海外旅行にはまり、有休はほぼ全振りしつつマジックの大会がなくても海外に遊びに行くようになっていました。最近は何種書類の趣味に堂々と「海外旅行」と書いています。しかしながらご存知のように、全世界的なコロナ禍により2020年の春からは海外旅行が不可能になりマジックの大型大会も開催ができない状況になったため、予定していたGWの高雄旅行や7月のマレーシア旅行も全部キャンセルして非常に悶々とした一年余を過ごしたものでした。

2020年の2月頃は、まだGWの高雄旅行を普通に予約できた感もあったのですが「無理に行ってもあんまり歓迎されそうにないよなあ」ということで自主的に計画を中止し申し込みもしませんでした（申し込んでも多分キャンセルされたとは思いますが）。

また7月のマレーシア旅行は、マレーシアの友人に現地を案内して貰うプランで日本の友人を誘って2月頭にLCCエアアジアの格安チケット（キャンセル返金不可で往復たった2万円）も購入したのですが、これも3月末の頃には世界的に「渡航は見送るべき」という状況になって当然のように見送りを決定し、さらに観光客が激減した結果として6月末に**エアアジアが**

倒産してしまいました。

※2021年11月現在、エアアジアは経営再建中であり、この購入したチケット代も「債権」の形で記録されているので、経営が再建されてエアアジアの就航が復活した折にはチケット購入に充当できそうです。2万円ですが。

またマジックの大会である「マジックフェスト」のラスベガスの大会が当初は2020年8月に予定されていたことから、これにも参加を予定していたのですが、2020年6月1日に「2020年のすべての大会は中止します」という決定がなされたため、これも自動的に中止しました。

結局のところまだコロナ禍が問題になっていなかった2020年の正月に韓国に遊びに行ったのが、筆者の2020年春から2021年秋の「最後の海外旅行」になってしまいました。この韓国旅行については同人誌「2020 正月韓国旅行記」にまとめましたので、よろしければそちらもどうぞ。

詳しくはあちらの同人誌に書いたのですが、あの時は正月休みを利用しての、冬コミ明けの元旦の夜に日本を発つという強行スケジュールであったうえ、鼻風邪を引いていて**発熱していたのに 2020 年に飛行機に乗れた**という今思えばネタのような状況でした。

ワクチンパスポートの取得

そんなわけで 2020 年の春から 1 年以上も海外旅行には行けない日々ではあったものの、状況が許せばすぐにでも海外旅行に行こうと考えていた筆者は、ラスベガス行きの話が浮上する前から「ワクチンパスポート」は取得しておこうと考えつつ動いておりました。

ワクチンパスポートについては皆さまもご存知かと思いますが、基本的には「パスポート」を所持し、かつ「コロナワクチン 2 回の接種証明」があれば、自治体に申請して取得できます。従って、その 2 つをまず揃える必要があります。

ワクチン 2 度打ちと接種証明書の取得

日本でのコロナワクチン接種は 2021 年の春頃から動き始めたわけですが、当然ながらコロナに怯える日々を過ごす筆者は「可能な限り早く打ちたい」と考えていたので自宅の東京都葛飾区のサイトを常時チェックしておりました。葛飾区では比較的ワクチン接種が順調に進んだのですが、それによると 5 月から高齢者から順次接種券が送付され、自分には 7 月 12 日以降に送付される見込みでした。しかし同時に「高リスク者は申請することで 6 月 21 日以降に接種券が優先配布されます」という記述を発見しました。自分は 50 歳を過ぎ、10 年前に心臓の手術をした**肥満**という立派な「高リスク者」に該当したので、これを利用することにしてただちに接種券を妻のぶんと合わせて請求しました。その接種券は 6 月 28 日に自宅に到着したため、ただちにリストの近所の医院に電話して妻の 1 回目接種の予約を翌日 29 日に入れたうえで、自分は少しだけ後ろにずらした 7 月 2 日に 1 回目接種の予約を入れました。

当時の報道から最大で 3 日程度の「副反応の高熱」の話を知っていたため、2 人同時に高熱で寝込んで家庭内のまずいという判断と、若い方がコロナに感染した際に重症化しやすいという話も聞いていたため、ワクチンを打ち終える前に感染する可能性も考え、数歳の違いとはいえ若い妻を先にしたというのがこの日程にした理由でした。

さらにこの一週間くらい後に区からの別の接種券セットが到着しました。これは区が高齢者から住民全員に順次送付している本来のものであり、区では「この人にはすでに本人の請求に応じて

接種券を送付済」とかいうチェックはかけておらず、無条件に送付しているらしいことがここで判明しました。ともあれ、ここで手元の接種券が2組になりました（伏線）。

重複チェックは面倒なだけの作業で、接種券は余らせても構わず、最終的には「住民全員」に打たせるべきものなので、そんな重複チェックはしなくても正解だと思いました。

基本的には、このまま何ごともなく2回のワクチンを打てれば、ただちに「接種証明書」が手に入り、これでこのタスクは完了します。

ただし筆者の場合、7月2日に1回目のワクチン接種を終え、さらに3週間以上後の7月27日に2回目の予約をしたのですが、その25日の間に自宅のどこかで1回目に使用したシールつきの

接種券を紛失してしまうという大変にマヌケな事態を引き起こしたことに7月27日朝になって気が付きました。

あるいはこれでも何とかなるのだろうかと思いつつ病院に確認の電話を入れたところ「接種券がなければ2回目のワクチン接種は受けられません」という当然の回答。このため真っ青になって部屋の再度の搜索を試みたものの見つかりません。しかしここでふと「そういえば接種券を2組貰えたので未使用の接種券があるよな」と気がついたので再度病院に電話を入れたところ「その接種券で2回目を接種できます」という回答を得たため、喜んでそれを持参したうえで2回目の接種を7月27日に無事に完了いたしました（伏線回収）。

どうでもいいのですが、その1回目の接種券の残りは現在も自宅で見つかりません（笑）。

ただしこの直接の結果として「1回目の接種と2回目の接種で違う接種券番号になった」ため、自分は「接種証明書」を病院で受け取ることができませんでした。

これについては、区には2回の接種記録が残っているため、区に所定の書面で請求を行うことにより「接種証明書」を入手できることは分かっていたのですが、この時点では具体的な渡航予定もなくパスポートも再取得できていなかった（次項）ため、それほど急いではいませんでした。

結局、接種証明書については2か月後の9月24日に「11月にラスベガスに行きたい」と検討を始めた（後述）ことから、並行して進めていたパスポートの再取得と合わせて動き始めて、9月29日に請求の申請書を投函しました。

その結果、接種証明書は10月13日に受け取ることができました。

パスポートの再取得

海外旅行が趣味である筆者は当然ながらパスポートは所持していたわけですが、たまたまこの2021年8月20日に愛用の10年ものパスポート（スタンプ50個以上！）が期限切れを迎えるため、どのみちパスポートの再取得は必要でした。

このため8月の頭には申請書を役場で貰ったり写真を撮影したりしての再取得に動いたものの、ここにきてまたしても散らかった部屋の中から**パスポートが出てきません**。

部屋が散らかっているにも程がある。いい加減にしろ。

「新規」でなく、すでにパスポートを取得済の人間が再取得を行うには旧いパスポートが必要であり、それがないと警察に行って「紛失届」を発行して貰う必要があるという大変に面倒くさいことになることがここで判明したため、ここでいったんパスポートの取得は見送り8月20日の期限切れを迎えました。この時点ではまだ具体的な渡航予定もなかったため、そこまで再取得を急ぐ必要もなく、さらに言えば10年後の再々の取得のことを考えると、不要なら遅めに取得したほうが良いのではという判断も少しだけありました（笑）。

しかしその後、9月になってからひょっこりと自宅から期限切れのパスポートが発見されたため、さすがに再取得しておくことにして、必要な書類を揃えて申請を行って、9月30日付けで新規のパスポートを獲得しました。なお少し後で述べるように、この次点ではすでに11月のラスベガス行きは決めています（笑）。

厳密にはパスポートは「期限切れの新規発給」と「期限内の切り替え発給」とでは若干必要な書類に差があるのですが、これはたいした話ではありません。

詳しくは外務省のページをご参照ください。

https://www.mofa.go.jp/mofaj/toko/passport/pass_5.html

ワクチンパスポートを取得

これでワクチン接種とパスポート番号が紐づいた「ワクチンパスポート」（新型コロナウイルス感染症 予防接種証明書）に必要な「ワクチン接種証明書」と「パスポート」が揃いました。

この次点ではすでに11月下旬のラスベガス行きを決めていたので、10月13日に接種証明書が

届くなり、即日であらかじめ請求・入手しておいた申請書にパスポート番号を記入のうえで接種証明書を沿えて投函しました。

どうやら区は即日で仕事をしてくれたらしく、ワクチンパスポートは10月15日に発行され、10月18日に自宅に到着しました。

新型コロナウイルス感染症 予防接種証明書 Vaccination Certificate of COVID-19	
姓名 [Surname Given name] 近藤 [KONDO] 生年月日 [Date of Birth] (YYYY-MM-DD) 1965-05-11 国籍・地域 [Nationality/Region] JAPAN 旅券番号 [Passport Number] [REDACTED]	
1回目接種 [First Dose] ワクチンの種類 [Vaccine Type] COVID-19 mRNA メーカー [Manufacturer] ファイザー [Pfizer/BioNTech] 製品名 [Product Name] コミナティ [COMIRNATY] 製造番号 [Lot Number] FA5829 接種年月日 [Vaccination Date] (YYYY-MM-DD) 2021-07-02 接種国 [Country of Vaccination] 日本 [JAPAN]	2回目接種 [Second Dose] ワクチンの種類 [Vaccine Type] COVID-19 mRNA メーカー [Manufacturer] ファイザー [Pfizer/BioNTech] 製品名 [Product Name] コミナティ [COMIRNATY] 製造番号 [Lot Number] FC8736 接種年月日 [Vaccination Date] (YYYY-MM-DD) 2021-07-27 接種国 [Country of Vaccination] 日本 [JAPAN]
証明書発行者 [Certificate Issuance Authority] 東京都葛飾区長 [Mayor of Katsushika, Tokyo Prefecture] 日本国厚生労働大臣 [Minister of Health, Labour and Welfare, Government of Japan] 証明書ID [Certificate Identifier] 131229-20211015-[REDACTED] 証明書発行年月日 [Issue Date] (YYYY-MM-DD) 2021-10-15	

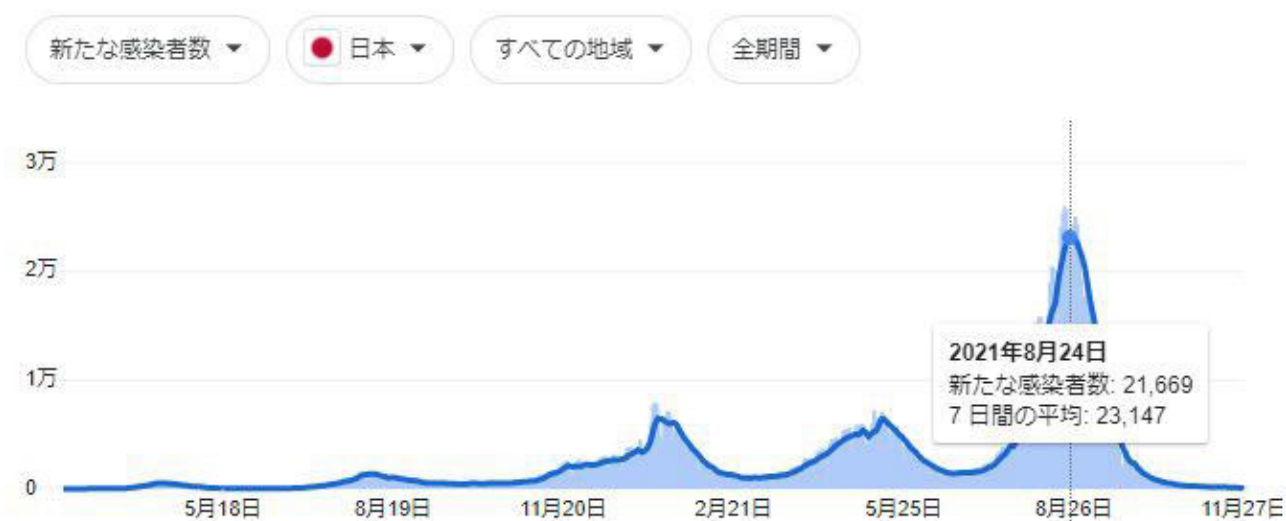
そうだ、ラスベガス、行こう

時系列が少しだけ前後するのですが、このように「いつでも海外に遊びに行ける」ための準備を進めている最中に「11月下旬にラスベガスに遊びに行こう」という計画が浮上したため、これの実現に向けて動き出すことになりました。ここではその辺の事情を記します。

冒頭で述べたように、もともとマジックの海外参加をきっかけとして海外旅行にはまった自分は、2020年春に突然それが不可能になったため、満たされない日々を1年以上過ごしておりました。しかしながら2021年の春から秋にかけては、国によってコロナ禍の状況には大差があるものの、全体としてはワクチンの接種も進んで沈静化への兆しも見えてきたことや、あるいは皆が**我慢できなくなった**ためか、なんとなく「そろそろいいかな」という空気になってきて、自分もあるいはシルバーウィークには沖縄にでも行こうかなあとか考え始めていたものでした。

ただし実際には2021年の夏の東京は、東京五輪2020の影響がどの程度あったか等は不明なものの、大変にコロナの感染者が激増したうえ東京都では「自宅療養」という名の医療崩壊も起こり実際にそれで亡くなった方も出ている酷い状況だったので、自分もシルバーウィークの旅行などは計画を見送ったのですが（沖縄も酷い感染状況でした）。

しかしながら東京五輪も終わって9月に入ると、日本や米国では歴然と感染者数が激減しはじめ、特に日本では「何でここまで減ったのか分からない」と言われるほどに急速に沈静化することになりました。米国も、日本よりはずっと感染者が多いものの下降線を描いていました。



そしてこのような流れを受けたためか、米国のマジックの大手会社 ChannelFireBall (CFB) が 2021 年 9 月 24 日に「2021 年 11 月 19~21 日にラスベガスで紙の大型大会 MTG Vegas を開催します」と発表しました。

もとより筆者にとっては、2013 年にこの CFB が主催したマジックの大型大会の「グランプリ・ラスベガス 2013」の**あまりの楽しさ**に感動したのが筆者が海外旅行にはまったきっかけで、以後もラスベガスでグランプリ（マジックフェスト）が行われると参加していたことから、この発表を聞いた筆者は「これは行きたいなあ」と強く思って調べ始めたわけなのですが、どうやらこれは「行けるのではないか」というよりも「**行かない理由はないのではないか**」と思うに至りました（笑）。調べた限りでは、米国に観光旅行をするための当時の諸条件はすでに達成できるように思えたためです。

- ・この時点では「取得中」でしたが、ワクチンパスポート（接種証明書）は 11 月までに取得見込みでした。※厳密にはこの時点では米国は接種証明書を要求していなかったのですが、これは 11 月 8 日からやはり「必須」になりました。
- ・米国は海外渡航者に「指定ホテルで〇日間の軟禁」を要求していない**ゆるめの国**であり、そのために有休を何日も消費する必要がなく、すぐ観光を楽しめる。
- ・出国前、帰国前に飛行機に搭乗するためにはコロナの検査を受け「陰性証明書」を発行して貰う必要があるが、基本これは費用を払ってやればいいだけのことである。
- ・日本政府から帰国後には 14 日間の外出禁止の要請があり、これは「毎日の出社」が必要な方には（そんなに有休は使えない）渡航を断念する理由になると思いますが、自分の会社は「フルリモート」勤務であったため、自宅引きこもりは無問題。
- ・有休はたっぷり残っており、おカネはまあ、どうにでもなるでしょう。

このため 3 日ほど悩んだ 9 月 27 日に会社の上司や総務に対し「11 月下旬にイベント参加のため米国に 1 週間くらい遊びに行こうと思います」と打診し、それに対しては「会社としては社員の有休使用は原則自由です」という「OK」が出ました。ラスベガス観光旅行へのゴーサインです。

ラスベガス行きの計画立案

11月のラスベガス行きにゴーサインが出たので、ただちに渡航を現実化すべく即日から着手することにしました。すなわち以下の決定と、それに伴う手配をその日のうちに開始しました。

- ・日程を11月17日（水）に出国、11月26日（金）に帰国と決定。
- ・9月27日にエクスペディアでデルタ航空の便を予約し、ホテル（無料キャンセル可）を8泊仮予約。支払料金は総額155,985円でした（航空券の内訳は10万円ほどの模様）。
- ・考えたくないものの、可能性として米国でコロナに感染して帰国できず現地での入院を余儀なくされることも想定され、その場合に米国の病院に**何百万円も**払うことは絶対に避けねばならず、クレカの付帯保険だけでは不安だったため「エイチ・エス損保」の該当期間の**金額無制限**の医療保険に10月4日に加入しました。掛け捨てで4960円かかりました。
- ・ESTAを取得しました（10月4日にネットで申請、10月5日に承認）、14ドル。
- ・本書の主旨としては関係ない話ですが、自分の旅行目的であるマジックのイベントへの申し込みを行いました。本戦とサイドイベントのパッケージで245ドルでした。
- ・向こうでもネットに常時接続するためにGlobal Wifiのモデムレンタルを検討しましたが、9日間で2万円くらいかかるのでこれは見送りました。過去の経験からホテルや店のWifiで何とかできることが想定されたためです。

このときには次の便を予約しました（日時は現地時刻で、日本と米西海岸との時差は-17時間）。

往路	Delta 166	2021年11月17日（水）17:20	羽田（HND）発	9h
		2021年11月17日（水）9:20	シアトル（SEA）着	
	Delta 2748	2021年11月17日（水）11:58	シアトル（SEA）発	2h32m
		2021年11月17日（水）14:30	ラスベガス（LAS）着	
復路	Delta 2148	2021年11月25日（木）7:30	ラスベガス（LAS）発	2h41m
		2021年11月25日（木）10:11	シアトル（SEA）着	
	Delta 167	2021年11月25日（木）11:20	シアトル（SEA）発	10h50m
		2021年11月26日（金）15:10	羽田（HND）着	

「アメリカ横断ウルトラクイズ」の帽子

本書の主旨としては関係ない話なのですが、ラスベガス行きを決めた直後の9月28日、小学館が雑誌「幼稚園」の12・1月号に「アメリカ横断ウルトラクイズの帽子を付録につける」といった

頭のおかしな企画をツイッターで発表し、この界限に衝撃が走りました。



https://twitter.com/youchien_hensyu/status/1442677982640836613

「アメリカ横断ウルトラクイズ」は筆者の世代にはストライクのTV番組だったのですが、いま「幼稚園」を読ませる幼児を持つ両親の世代がこれを観ていたかどうかは怪しく、むしろ幼児の孫を持つ**祖父母**を想定したとしか思えない企画なわけですが、いずれにせよどう考えても当の幼児や両親がこれを喜ぶとはあまり思えず、うん、やっぱり頭おかしい（笑）。

それはそれとして、筆者としては「この帽子をかぶってラスベガスの看板の前で写真を撮るのはネタとして面白いのではないか」というインスピレーションを得たうえで「幼稚園」の発売日を見ると出国直前の「11月16日ごろ」。間に合いますね。これはもう買うしかないでしょう。このため「幼稚園」の11月号が発売された後の10月24日に駅前の書店で「幼稚園」の次号を予約し、入手できる運びになりました。

帰国日を前倒しする

このラスベガス旅行は会社の総務・上司筋の承認を得たうえで決行したわけですが、先の日程に基づいて予定表を提出したところ 10 月 7 日に総務から**これではダメです**と NG が出ました。帰国日の 2021 年 11 月 26 日（金）の夜に予定されていた社員総会に参加できなくなる可能性が予想されたためです。

これは弊社独自の話で一般には無関係の話なのですが、弊社の年次業績報告と次年度の計画を発表する「社員総会」（および懇親会）が当日の 11 月 26 日の夜に予定されており、これへの参加（オンライン参加で OK）は、弊社社員としての重要なイベントとなっていたのです。

自分はそれもあったために帰国日を 26 日の昼過ぎに設定し、これは空港での検疫を終えて自宅に開始時間までに帰宅できることを想定したスケジュールでしたが、総務からは「それでは何かのトラブルがあったら参加できなくなるではないか」といった大変に**もっともな指摘**があり、自分も反論できず、同時に自分でも社員総会の開始時間を午後 6 時でなく午後 8 時と勘違いしていた（それは懇親会の時間でした）ことにも気がついて（笑）「仮に予定通りの 15:10 に羽田に着いても、羽田での入国前 PCR 検査などを考えれば普通に 18 時には帰宅できていない可能性が高いな」というのも予想されたため「分かりました。帰国予定を前倒しします」と返答しました。言うまでもなく、単に遊びに行って社内の重要イベントの社員総会をすっぽかせば、これは人事からは白い眼で見られて将来のマイナス査定になる可能性も高いことでしょう。

結果的には、本書の後半で述べるようにまさにトラブルが発生して帰国が丸一日遅れたので、この総務のクレームに従ったことは「完全に正しかった」ことも証明されました（笑）。

ハワイアン航空の前日便にプラン変更

そういうわけで、購入したデルタ航空のこのチケットはキャンセルする必要が出ました。そこでエクスペディアに電話して担当者にその意向を伝えると「お客様のこのチケットはキャンセルで全額返金されない（安い）タイプのチケットですがよろしいですか」と確認を求められます。む。これだけ不確定要素が多い状況なのだから、少々は高くても「無料キャンセル可」のチケットを

購入すべきであったのだな。馬鹿馬鹿おれの馬鹿。しかしキャンセルは必然だ。

電話口で「うーん…」と悩んでいると、エクスペディアの担当者が「ご提案なのですが」と申し出てきました。内容は「まだ一カ月以上あるのでキャンセルは保留したほうが良いと思います」というものでした。理由を聞くと「今後この便の時刻などが一部変更される可能性があります、その場合には**航空会社の責任**になるので無料キャンセルが可能になるでしょう」とのこと。なるほど！あたまいいな！その案を採用。エクスペディアの担当者に感謝。

「ただし変更されないまま当日までキャンセルしなかったら 100%支払いになりますので一週間くらい前にはキャンセルしてくださいね」ということ。これも快諾して電話を切りました。

このためキャンセルは見送ったものの、前日までの別の便を購入しなければなりません。

そこで再びエクスペディアのサイトを開いて前日に帰国できる便を探すと、なぜかデルタ航空の 1 日前の同じ便が表示されず、2 日前の同じ便が表示されました。

あるいは早々に売り切れてしまったのだろうかとも最初は思ったものの、おそらくこれは海外旅行が壊滅状態のご時世なので、デルタ航空は「2 日に 1 便に減便」していたということなのではないだろうかとも思いました（裏を取っていないので、真偽は不明です）。

別にデルタ航空にこだわる理由はなかったもので、それではと 1 日前に帰国できる他の航空会社の便を安いものから探すと、ハワイアン航空のものがなかなか良さそうだったので、検討のすえに 10 月 7 日にぼちりました。こういう旅程のチケットでした。

（日時は現地時刻で、日本とハワイとの時差は-19 時間、日本と米西海岸との時差は-17 時間）

往路	Hawaian 458	2021 年 11 月 17 日（水） 21:20	羽田（HND）発	7h10m
		2021 年 11 月 17 日（水） 9:30	ホノルル（HNL）着	
	Hawaian 17	2021 年 11 月 17 日（水） 16:05	ホノルル（HNL）発	6h35m
		2021 年 11 月 17 日（水） 23:50	ラスベガス（LAS）着	
復路	Hawaian 18	2021 年 11 月 24 日（水） 1:50	ラスベガス（LAS）発	6h25m
		2021 年 11 月 24 日（水） 6:15	ホノルル（HNL）着	
	Hawaian 863	2021 年 11 月 24 日（水） 12:55	ホノルル（HNL）発	9h15
		2021 年 11 月 25 日（木） 17:10	羽田（HND）着	

当初のプランと違ってラスベガス到着は水曜の深夜になるので水曜日は寝るだけになりますが、木曜の夜に帰国できることから金曜の夜の社員総会への参加は無問題と思われました。

長時間のフライトは疲れるので、半々ずつにできるのも体力的にやさしそうです。

ラスベガス出発は水曜の深夜ですので、火曜はまる1日を観光に充てて夜に空港に行くプランで良さそう。都合、1日くらいラスベガス観光の時間が減りますが無問題でしょう。ホテルは水曜から月曜までの6泊を取る必要があります。

そこで当初予定のホテル宿泊予約（マルディグラに8泊）をいったんキャンセルしたうえ観光の予定も考慮してホテルを再検討し、OYO ホテルに2泊、マルディグラには3泊、ダウンタウンのゴールデンゲートカジノに1泊、というプランに変更しました。

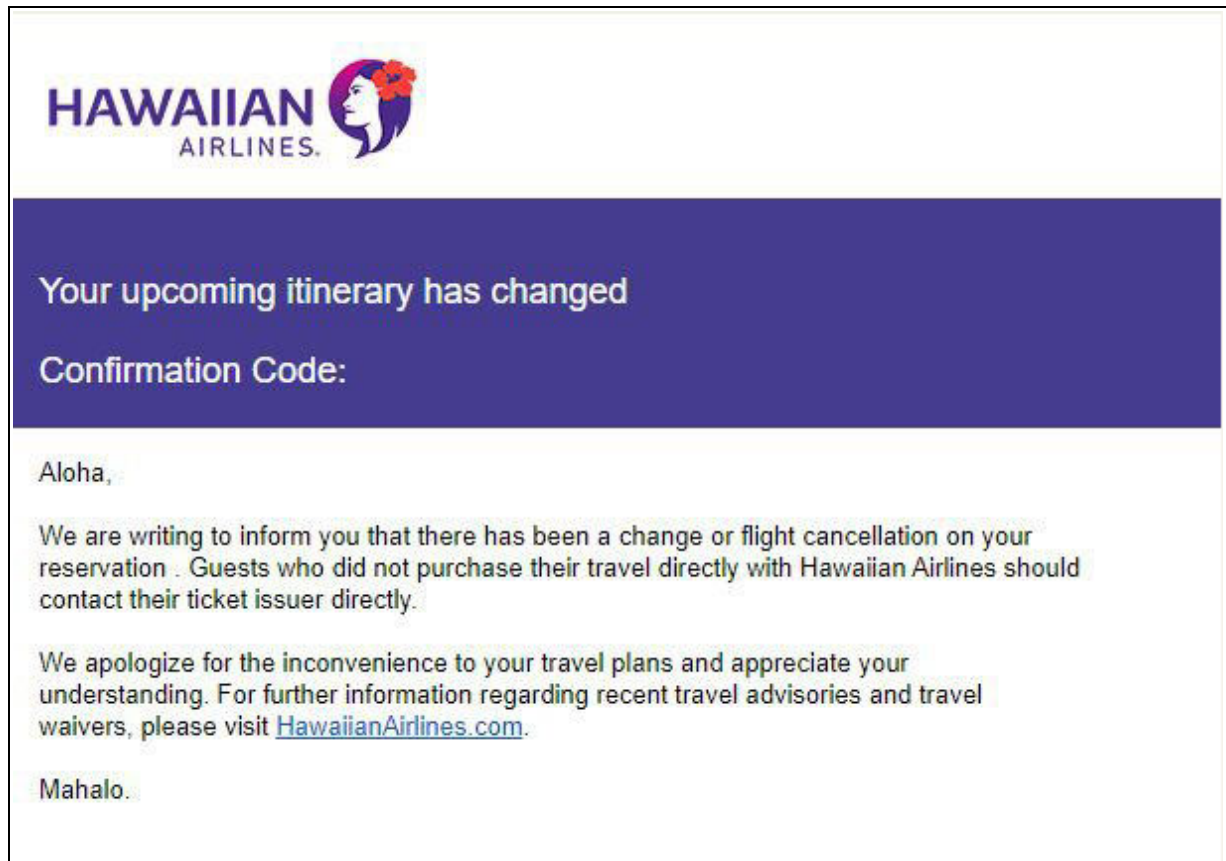
基本的に、ホテルは直前まで無料でのキャンセルが可能なものなので、こういうことは気軽にできます。マルディグラはマジックの大会の会場そばにある良いホテルなので、金曜～日曜の大会の前後の宿泊先として決めておりましたが、一方で OYO ホテル（旧フーターズホテル）がどうなったかにも興味があり、さらに「ダウンタウン」のホテルにも泊ってみたかったのです。それぞれのホテルがどういう内容だったのかは姉妹同人誌「ラスベガス旅行記 2021（MTG 観光編）」で詳述しますので、ご興味のある方はそちらを併せてお読みください。

同時にホノルル空港で合計で半日くらいの待ち時間が発生するわけですが、まだハワイに行ったことのない筆者としてはむしろコレも楽しみのうちで「ハワイかぁー、ハワイ土産を買っていくのもいいかなー」とか夢想して吉田戦車の「伝染るんです」のネタなども披露しておりました。



ハワイアン航空が強制キャンセル

ところがハワイアン航空の航空券を購入した2日後の10月9日、突然ハワイアン航空から1通のメールが届きました。予約の確認かなと思って開いたところ「あなたの予約した便がキャンセルされました」という驚きの内容でした。えっ。



えっ、どういうこと？と思ってエキスペディアのページで航空券を検索するとハワイアン航空の羽田の発着便がまったく出てきません。どうやら一時的に、ハワイアン航空は羽田ホノルル間の就航便を全部中止したようでした。

正確な理由は不明で裏も取っていないのですが、おそらくはコロナ対策の関係だと思われます。外務省のページなどでも分かりますが、ハワイはアメリカ本国とは別のコロナへの渡航基準を設けており、しかもどうやら状況が悪化していたようなのです。なお本書執筆中の2021年11月の時点では、ハワイアン航空の羽田ホノルル便は普通に就航を再開しております。

これは当然ながらチケット代は全額返金されたわけですが、ともあれ再度フライトを取り直す必要が生じました。

結局、帰国日を2日前倒しする

ハワイアン航空のプラン消滅にともない、11月25日（木）に帰国できる手頃なチケットは存在しなくなりました。このため改めて10月17日にデルタ航空の「2日早い同じ便」セットを再度購入することにしました。

（日時は現地時刻で、日本と米西海岸との時差は-17時間）。

往路	Delta 166	2021年11月17日（水）17:20	羽田（HND）発	9h
		2021年11月17日（水）9:20	シアトル（SEA）着	
	Delta 2748	2021年11月17日（水）11:58	シアトル（SEA）発	2h32m
		2021年11月17日（水）14:30	ラスベガス（LAS）着	
復路	Delta 2148	2021年11月23日（火）7:30	ラスベガス（LAS）発	2h41m
		2021年11月23日（火）10:11	シアトル（SEA）着	
	Delta 167	2021年11月23日（火）11:20	シアトル（SEA）発	10h50m
		2021年11月24日（水）15:10	羽田（HND）着	

同時にホテル宿泊予定も修正し、OYO ホテルに2泊、マルディグラに2泊、ゴールデンゲートに2泊することに変更しました。マルディグラのチェックアウトを月曜でなく日曜とし、日曜には大会会場を荷物を引いて歩くという金曜同様のプランとし、大会直後にダウンタウンに移動することにしたわけです。支払料金は総額149,770円に減りました。たぶんホテル2日短縮の影響で、航空券の内訳は大差なく10万円ほどのようです。

同時に、あこがれていたハワイ上陸プランも、消滅しましたが…。



陰性証明書の取得計画を立てる

コロナの水際対策の基本として「米国への入国」「日本への帰国」には出国の前にコロナ検査を受けて「陰性証明書」を取得する必要がありました（本書の執筆時の現在も同じです）。これは「入国」を受け入れる側の国が独自決定する方針に基づくもので、基本的にそれに沿った内容の検査（検査方式や検査結果の有効期限）に基づく陰性証明書を取得していなければ、その国への入国は行えません。従って国際空港ではその国に入国する飛行機の搭乗前にその書類チェックを行ったうえで搭乗許可を出しています。※もちろん陽性の場合でも搭乗できません。

- ・日本で米国行きの飛行機に搭乗するには、出国便の3日以内の陰性証明書が必要でした。
- ・米国で日本行きの飛行機に搭乗するには、出国便の72時間以内の陰性証明書が必要でした。
- ・多数のコロナ検査方式のどれが有効と認められるかについては、国ごとに異なります。

一番の問題は最後の「検査方式」です。みなさまもコロナ検査には、大別して「PCR検査」と「抗原検査」があることはしばしば耳にしているでしょうし、抗原検査と言っても「定性」と「定量」の違いがあり、加えて検査のための検体採取方式は同じPCR検査であっても「鼻ぬぐい方式」と「唾液採取」の違いなどがあるのですが、基本的にはこれが少しでも異なる検査による陰性証明書では、たとえコロナ陰性であっても出国は**認められません**。もちろんそのへんのドラッグストアで購入した検査キットの結果などは問題外です。

このため海外の渡航に際しては、訪問先の国で認められる方式による検査を行い、その訪問先の国の書式の「陰性証明書」を発行できる医院で出国直前（3日以内や72時間以内）に検査を受診したうえで、その書式の「陰性証明書」を発行して貰わなければなりません。

この関係で「海外渡航の検査」を行う医療機関は概して高額の検査費（＋証明書発行費）を要求しています（あと初診料も）。これはネットで検索すると出てきますが、1番安い所でも2万円、高い所だと5万円近く請求する所もあります。値段は「すぐに結果が出る」検査と「結果は翌日出る」検査の違いなどにもあるのですが、筆者は「PCR検査なんて検体の採取には5分もかからないし中国などでは1回500円以下でできるものなのに、ひとの**足下を見る**のもいい加減にしゃがれ**この野郎**」とか苦々しく思いつつ、それでも選択の余地はないので、ネットで調べて米国への渡航実績を謳う業者の中では比較的に良心的な価格であると判断できた「東京上野駅前トラベルクリニック」（※1）に予約を入れることにしました。

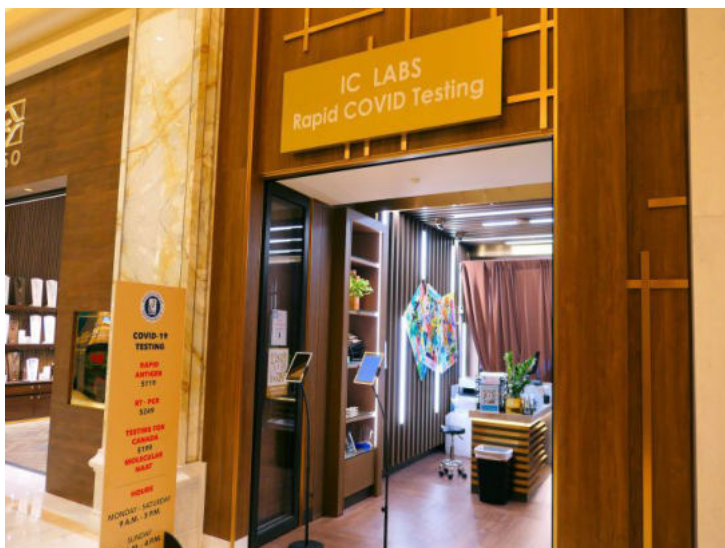
また一方で、同様に帰国の前に受ける検査はどこが良いのだろうかと考えた結果、愛読している「ラスベガス大全」のサイト（※2）で、リゾート・ワールド内に検査を行ってくれるクリニック「IC Labs」がある（※3）という情報を知りました。「ラスベガス大全」は実際にラスベガスに在住する日本人スタッフが書いている情報サイトで、実際にコロナ禍の中で来日している実績がありその記述にも信頼がおけたので、ここで 119 ドルで検査を受けることに決めました。

※1 <https://pcr.luna-dr.com/ueno/>

※2 <https://www.lvtaizen.com/1275/>

※3 <https://rapidtesting.us/>

「ラスベガス大全」に掲載されていた
リゾート・ワールド内の IC Labs の写真→



余談ながら、日本ではなぜか現在（本書執筆時の 2021 年 12 月）でも「PCR 検査抑制論」が主張されている国であり、明確に PCR 検査よりも精度が低いと分かっている「抗原検査（定性）」がなお主流でもあり、世界のスタンダードである「無症状の方への検査」は有害ですらあるという論調すらまかり通っています。

筆者としては「無症状時にも強い感染力を持つコロナ」に対して「無症状時にはほとんど陽性判定ができない抗原検査（定性）」を主流にしているのは、ある意味で正気を疑うのですが…。

これは国策であるフシもあり、実際に医療機関でコロナのための PCR 検査を受けようとなると、健保では 1800 点（18000 円）もかかる設定のため、おいそれと受診して PCR 検査をして貰うことなどできないのが現状です。※健保のインフルエンザの検査だと 296 点とか、そんな感じ。

このためあるいは、この検査料の 3 万円とかいうクソ高い値段も、日本の国策に沿った設定なのだろうか…とも考えたのですが、米国でも大差ない値段である事実から、これは日本独自の状況でもないらしいことは理解できました。まあ、医者が**足下を見てポッタくるのは世界共通**ということなのだろうかとは思いましたが。

米ドルの確保

これはコロナの対策とは無関係の海外旅行一般の話なのですが、現地で滞在するうえでは現金をそこそこ用意する必要があるので、出国前にそれを準備しました。

米国はクレジットカード社会で、おそらくすべての店では「カード OK」であり、「現金不可。カード払いのみ」を要求される局面もしばしばで、小さい店などでは 100 ドル札は偽札を疑われて引き取ってくれないことも多いので、実のところ現金をほとんど持たずに観光したほうが良いかもしれません。でも基本、自分はカード払いが嫌いなんです（笑）。あとカジノでは、テーブルの上に現金を置いてチップと交換する必要もありますので。

通常の海外旅行では、自分は現地通貨の現金は「ATM でクレカのキャッシングをして、帰国後に振り込みの前倒し返済」を行う手法を採用しています。これは多くの場合、手数料が一番安く済む方法であるためです。

なのですが、今回は一週間という比較的長期旅行になるので帰国後に支払う日割りの利息と円安（円安傾向でした）が気になったのでこの手は採用せず「手元のジャッジフォイルなどの高額なマジックのカードを大会の会場で売却して米ドル現金を稼ぐ」ことにしました。これはデッキに入れる予定もなく余っているカードは処分しても構わないだろうという気持ちもありました。そこで手元の売却可能な米国に持参する高額カードをリストにしたうえで、日本国内のマジックショップの最大手（晴れる屋）の最新の「シングルカード買取価格」（日本円）を調べたうえで、それを 115 で割ることで米ドルで換算した買い取り目安価格リストを作成しました。

会場では先方が提示する買い取り価格（米ドル）をこのリストと比較し、それを上回っていれば即座に売却するという計画です。全部売却できれば 2000 ドルくらい期待できる分量でした。

基本的にはマジックのカードの価値というのはどの国でも同じなのですが、シングルカードの買い取り価格は日本と米国の「人気カード」に差があるので、ものによっては割と大きく買取価格が異なることもあります（日本語カードはたいてい買い取り拒否もされます）。加えて、同じ国内でもショップによって買取価格もそれなりに異なるのが普通です。これはショップは「自分の店の客層にすぐ売れる」ことを念頭にカードを買い取るためですね。また晴れる屋は「業界最大手の標準」なのですべてのカードの買取リストがあります。

会場でカードを売却できるのは渡米 3 日目なので、それまでの 2 日間のために大黒屋で米ドルを購入などして 400 くらいの米ドルを米国で使用する財布に詰め込みました。

デルタ航空の重複した予約のキャンセル

すでに述べたように（→P.14）帰国日の変更にともない重複して購入してしまったデルタ航空のチケットですが、残念ながら一週間前になっても「デルタ航空がフライトを変更したので無料でキャンセル可」にはならなかったため、諦めて2021年11月11日にエクスぺディアに電話して、遺憾ながら手数料18000円を支払って最初の予約セットをキャンセルしました。他に特筆すべきことはありません。

出国前 PCR 検査と陰性証明書の取得

米国への渡航には「出発3日以内の検査による陰性証明書」が必要です。出発は2021年11月17日（水）でしたので、11月14日（日）以降に検査をする必要がありました。

ここで有休を使うこともないので、11月14日（日）の昼に先だって調べて一応予約も入れた「東京上野駅前トラベルクリニック」（→P.18）に行きました。

これは基本的に、サイトに掲載されている住所を訪れて、受付で氏名を伝え、あとは先方に指示されるままに料金2万円を支払ったうえで必要な問診や書類を書いて検査を受けただけなので、特筆すべきことはあまりありません。PCR検査自体は鼻の穴に綿棒を入れてぐりぐりするだけで5分もかからずに終了し、トータル30分もかからずに終了しました。

留意点としては「唾液採取による検査の場合には直前の飲食は禁止」なので、昼食を取る前に空腹を我慢して訪問した点でしょうか。まあ実際には唾液採取でなく鼻ぬぐい方式だったので、その必要はなかったのですが。検査を受ける場合には「どの検査方式か」ということは、常に意識して詳しく下調べしておくべきだと思いました。

検査費用を節約するため「2時間後に検査結果を受け取れる」コースではなく「翌日検査結果を受け取る」コースにしたため、翌日の11月15日（月）に妻に代理で陰性証明書を受け取りに行き、貰いました（もちろん陰性でした）。

COVID-19に関する検査証明
Certificate of Testing for COVID-19

Date of Issue 14 Nov 2021

氏名 Name  KONDO
パスポート番号 Passport Number 
国籍 Nationality JAPAN
生年月日 Date of Birth 11 May 1985
性別 Sex Male

上記の者のCOVID-19に関する検査を行った結果、その結果は下記のとおりである。よって、この証明を交付する。

This is to certify the following results which have been confirmed by testing for COVID-19 conducted with the sample taken from the above-mentioned person.

採取検体 Sample	検査法 Testing for COVID-19	結果 Result	決定年月日 Result Date 検体採取日時 Sample Date and Time	備考 Remarks
・鼻咽喉ぬぐい液 Nasopharyngeal Swab	・核酸増幅検査 (Real-time RT-PCR法) Nucleic acid amplification test (Real-time RT-PCR)	陰性 Negative	Result Date <u>14 Nov 2021</u> Sample Date and Time <u>14 Nov 2021 11:44</u>	

検査機器 Testing Device

CronoSTAR 96 Real-Time PCR System (4ch)

試薬の名称 Name of Reagent

SARS-CoV-2 Direct Detection RT-qPCR Kit

販売元企業名 Name of Manufacturer

タカラバイオ株式会社 Takara Bio Inc.

The test meets performance standards of $\geq 97\%$ specificity, $\geq 80\%$ sensitivity at viral loads above 100,000 copies/ml by this device.

医療機関名 Name of Medical Institution

Tokyo Uenoekimae Travel Clinic

住所 Address of Medical Institution

#2F Yasutomi Building, 4-5-11, Ueno Taito-ku,
Tokyo, 110-0005, JAPAN

電話番号 Telephone Number

+81-50-3189-7075

医籍登録番号 Medical Registration Number

371626

医師名 Name of Physician

, MD

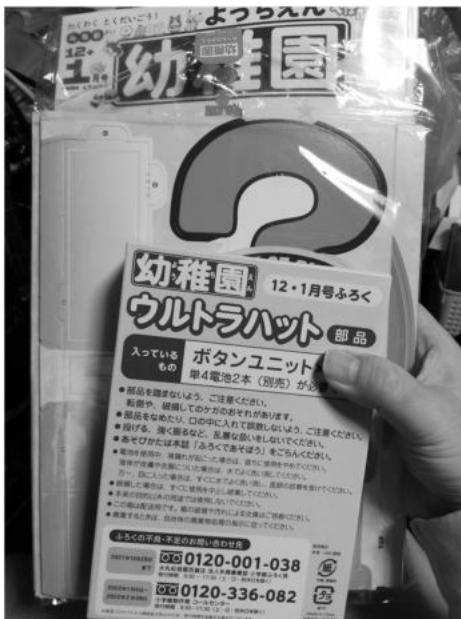


「アメリカ横断ウルトラクイズ」の帽子組み立て

本書の主旨であるコロナ対策にはまったく関係のない話ですが（笑）、今回の観光旅行のネタとして雑誌「幼稚園」の付録の「アメリカ横断ウルトラクイズ」の帽子を入手し、これをかぶってラスベガスの看板の前で自分の写真を撮ろうという計画を立案しました（→P.12）。

雑誌「幼稚園」の12・1月号は予約していた書店に予定通り11月16日（火）に入荷したので、妻に駅前まで取りに行ってもらって貰ったうえで無事に確保しました。

これは組み立て式なので、さっそくその夜に組み立てを行いました。すでに基本の荷造りなどは日曜に終えていたとはいえ、**出国前夜**に何をやっているんだと思わないでもありません（笑）。



基本は幼稚園児でも組み立てられる筈のものなのですが、自分の不器用な指ではふにやふにやのダンボールの耳をうまく切り込み口に差し込むことに苦労したりして、そこそこ難渋しましたが、それでも差し込んだ後をセロテープで補強したりして、1時間強で完成しました。この再現度は素晴らしいとしか言いようがありません。

さっそく別途**あらかじめ購入**しておいた「画板」と「自撮り棒」を取り出して、台を乗せた状態で帽子をかぶり（手を治えて）もう一方の手で自動り棒を操作して狙ったアングルの背景を撮影しようと試みます。うん、けっこう難しいな…。ほんとうに出国前夜に何をやっているのか。

2021 年 11 月 17 日（水） 出国の日

いよいよたのしいラスベガス旅行の始まりです。

フライト時刻は夕方 17 時 10 分羽田なので、午前中は通常勤務をしたうえ（午後から有休を取得済）、正午に荷物を押して自宅を出ました。

自宅からのバス停前で自転車で倒れて頭を打った事故が発生したらしく、救急車が来て倒れている方に声かけをしつつ収容しようとしていて、通常的位置に停車できなかった青砥駅行きのバスに乗車するというスタート。

青砥駅そばのタイ料理店に入り、昼食のガパオライスを注文します。初めての店ですが、うん、おいしいです。



食事中に、カウンターの店長らしいタイ人の女性が、日本人の老人（関係は不明）に対し「年末にバンコクに帰国するので、それに先だち検査を受けるための病院の予約」を電話口でさせようと、たどたどしい日本語で命令しています。おお、なんかタイムリーだな。

羽田空港に到着

13 時 10 分発の京急で青砥から羽田空港へ。車中では自撮り棒の撮影練習などをしていました。

13 時 56 分に羽田空港第 3 ターミナル駅に到着。そのまま第 3 ターミナルに入り、デルタ航空のカウンターへと向かいます。いよいよ出国チェックの開始です。

フライトまでまだ 3 時間以上あるものの、デルタ航空はチェックインを受付けてくれたようだったのでそのまま並びます。ほとんど列はありません。そして係員が「パスポート」「陰性証明書」「ワクチンパスポート（接種証明書）」「デルタ航空の宣誓書」の 4 点を要求してきたので提出。

確認作業ののち「OK」が普通に出ました。よし、

第1チェックポイントをクリア。

本日はPUIPUI モルカーのトレーナーを着ていたのですが、デルタのカウンター前で待っている際に、案内係の若い女性が「わたしも PUIPUI モルカーが大好きなんですよ～」と声をかけてきました。お、これが**逆ナンパ**というものか（ちがいます）。

しかしながら「このトレーナーは、しまむらで買ったんですよ」までは良いとして、なぜそこで「女房と一緒にハマってるんです」と言ってしまうのかな俺。余計なことを言わなければ、もしかしたらそこでロマンスに発展したかもしれないというのに、俺の馬鹿！（ありません）



たのしいラスベガス旅行の始まり



まだ2時間あったもののゲートインが始まっていたので、そのままセキュリティを通過し、イミグレを通過しました。

すなわち**日本国外**に出られました。

時間つぶしのためにカードラウンジに入ります。コロナの対策の意味もあるのでしょうけど、つまみの類はなくて缶ジュースとコーヒーベンダーしかありませんが、上等。

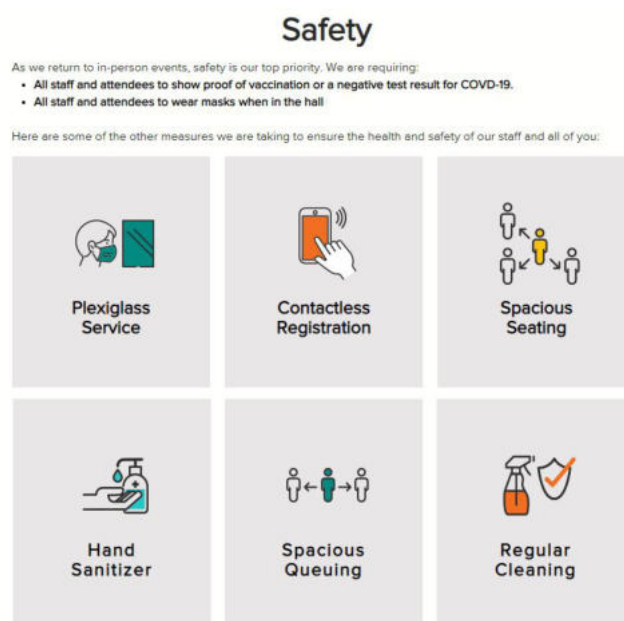
しばし充電と時間を潰しをしてからラウンジを出ます。

デルタのシステムダウンで30分遅延したものの、無事に112番ゲートからDelta166機は離陸しました。

ここから先の観光旅行については、本誌の姉妹同人誌の「ラスベガス旅行記 2021（MTG 観光編）」で詳しく述べるものといたします。よろしければそちらをどうぞ。

PART2

米国コロナ対策編



マジック・ザ・ギャザリングの大会「MTGVegas」サイトでのコロナ対策の姿勢

ラスベガス観光旅行については姉妹同人誌の「ラスベガス 2021 旅行記（MTG 観光編）」に主にまとめますが、現地でコロナ対策に関係することが行われていた部分については、こちらに記述しておくことにします。

おことわり：米国は州によってまったく異なり「ノーマスク」「反ワクチン」の声が支配的な州もあるようなのですが、これはあくまでも筆者が滞在したラスベガスについての見聞です。

米国の入国時チェック

羽田から9時間のフライトを終え、シアトル・タコマ空港（SEA）に到着しました。日本時間の18日（木）の午前2時半。米国西海岸時間では1日戻って17日（水）の午前9時半です。

ここからは現地時間で記述します。

シアトルのイミグレでは普段よりもいささか突っ込んだ質問をされ時間を取られました。これもあるいはコロナ対策の一環なのかもしれません。

「1人で来たのか？」「はい」

「迎えに来る友人などは？」「いません」

「目的は？」「観光です」

「予定は？」「ラスベガスでカードゲームのイベントに参加するために来ました。マジック・ザ・ギャザリングというゲームです」（※先方は無反応）

「そのイベントへの参加招待などがありますか？」「はい」

（ここで参加申し込みメールを見せようとするも、うまくメールボックスの過去メールが開けませんでした。ただし、もたもたして見せられなくても結局は免除して貰えました）

「所持金は？」「400ドルくらいです」

「よし通れ」

後でこの会話を思い出して気が付いたのですが、先方はマジック・ザ・ギャザリングを知らなかったようなので「ラスベガスでカードゲーム」というのを、ポーカーの大会のような大金が動くプレイヤーの賭け勝負であるとも思ったのかもしれません。いやまあマジックの大会も優勝すれば何万ドルかの賞金は入りますけどね。僕には縁がないだけで。

所持金400ドルと伝えたときの係員の「たったそれだけしか持たずに来たのか…」という目の光が忘れられません（それはただの被害妄想だろう）。

問題なく入国できたのは良いのですが、あれ？コロナの接種証明や陰性証明は一切**要求され**

なかったよな…。まあ別にいいけど。出国時に米国基準での審査をしているわけだし。

羽田で預けた荷物を回収して、さらにただちにラスベガス行きの荷物として預けてDelta2748機に搭乗し、あとはラスベガスに着いたら、ただちに観光に入りました。

ひとことで言えば、米国の入国時のコロナチェックは**かなりザル**だと思いました。

ラスベガス市内でのコロナ対策

あくまで自分の観測範囲での話ではあるのですが、商店やカジノ等を含めたラスベガス市内での**すべての施設**は「マスクをしないと入場できません」と入口に掲示されていました。実際の建物内では、食事時の食事処は別として、そうでなければノーマスクは店員に咎められますし、また筆者がうっかりとたまにやってしまう「鼻出し」も（やるなよ）店員が見とがめて注意してきます。入口の手洗いは、ある所もない所もある感じで、皆が常に通るときに利用する感じではありません。

屋外では、特に人混みのなかでは基本、人々はマスクをしておりました。わずかにノーマスクの人もいましたが、店員でもない赤の他人が咎めたりするような光景は目撃しませんでした。ただし、繁華街ではない人もまばらな歩道などでは、マスクをずらして呼吸しているような方はそれなりに目撃できました（正直なところ自分もそうしていました）。

つまりラスベガスではマスクに対する感覚は**日本と同程度かやや厳しい**くらいであり、ほとんど違和感を感じませんでした。

米国でも南部などでは「ノーマスク」や「ノーワクチン」の信仰者が敢えてそれを誇示したりデモや集会を開いていることが日本で報道されることもありましたが、当時のラスベガス市内の場合には、そういうものは皆無だったと言って良いと思います。

飛行機の中でのコロナ対策（デルタ航空）

基本的には「食事時以外での常時マスク着用」です。長時間のフライトでは多くの方が機内でも睡眠を取るのは普通なわけですが、睡眠時にもマスクは常時の着用が義務付けられています。睡眠中にうっかりマスクが外れてしまった場合であっても、CAが**わざわざ起こしてきて**マスクをつけさせます（自分もそれで起こされて注意されました）。

MTG Vegas でのコロナ対策

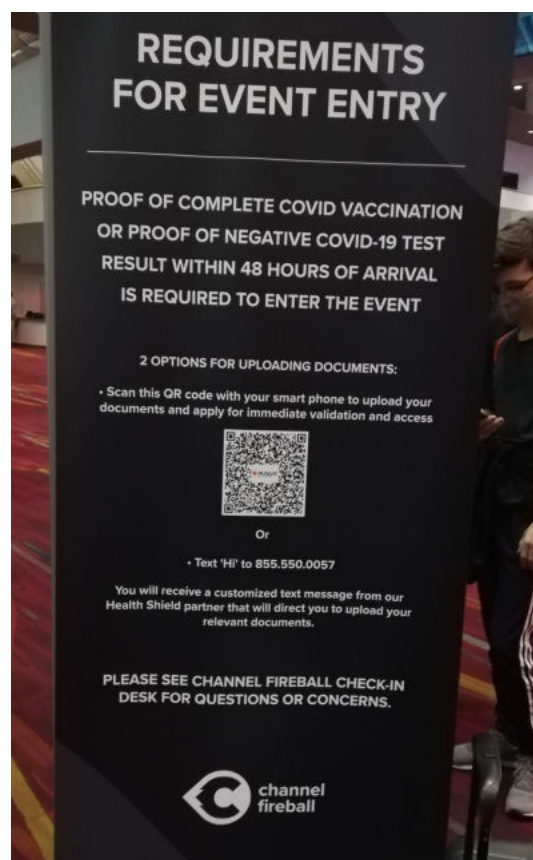
自分が参加した MTG Vegas は、大型施設 Las Vegas Convention Center (LVCC) で開催された、千人を超える参加者が3日間にわたって遊ぶカードゲームのイベントでした。従って、それなりのコロナ対策が主催者と参加者には求められました。

対策のうち一番大きいものは「参加者全員に入場前に証明書を要求する」というものであったと言えるでしょう。

筆者は開催初日の11月19日(金)の朝8時過ぎに OYO ホテルをチェックアウトして、荷物を引いて会場入りしたのですが、建物に入るなり目に入ったのは、最後尾がどこにあるかすらよく分からない**カオスな行列**(写真は比較的秩序のあった所です)。



皆がスマホを操作しているのでこれは何だろうと思ったので QR コードのある掲示を確認すると、どうやら「ワクチン2回接種済証明書か、48時間以内の陰性証明書」の**PDF**をこの URL へ送信しなさいということのようでした。



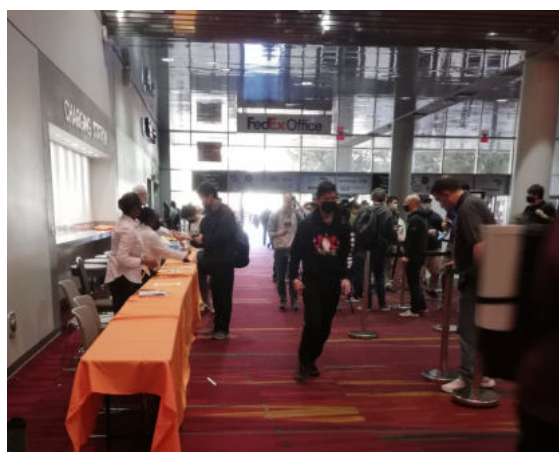
「PDF…そんなもの…ウチにはないよ」と思ったので聞くと「ではこちらへ」と別の窓口を案内されます。自分の陰性証明書は出国前の5日前のものなのでコレだけだったら**ここまで来て門前払い**だったのかもしれないなと思いつつも、ワクチンパスポートの紙と一緒に(念のため)陰性証明書の紙を提出したところ書類を確認のうえで「OK」が出ました。これで入場が可能になりました。



手渡されたリストバンドをはめ入場。基本的には会場の出入りの際に、入口の係員に見せる必要があります。

ただリストバンドであるという性質上、これは元来は全員が毎日チェックして取得すべきで受付も毎日開いてましたが、実際には2日目は随分落ち着いており（下写真）、3日目はほとんど列はありませんでした。1回取得すれば良かったですな感じ（リストバンドの入口チェックも2日目以降は省略されていたようです）。

まあ実のところは、わざわざこの時期にラスベガスまでくるヤツは**初日から全日参加**していると思われるわけで、そこそこ妥当な運用なの…かな？
（笑）



MTG Vegas 大会中のコロナ対策

MTG Vegas はコロナ禍のなかの久々の紙の大型大会でしたので、あらかじめ対策して開催することはサイトで謳われておりました（P.26 画像）。実のところこれは認可の関係もあったように思えるのですが、実際にはどの程度達成されていたかどうかをおさらいしておきましょう。

Plexiglass Service	アクリルガラス	プレイヤーの対戦席の間にアクリルの仕切りが立っているものを想像していましたが、 そんなものはなかった と思います。
Contactless Registration	非接触登録	サイドイベント登録などは手元のスマホで自分でサイトにアクセスして行うことができました。
Spacious Seating	間隔をあけた座席	普段は6人がけのテーブルを4人で使用し、まあ快適でした。もともと1万人くらい収容できる会場で2千人いないでしょうから無問題。
Hand Sanitizer	手の消毒	利用されたかはともかく、消毒液は出入口などにあったと思います。
Spacious Queueing	間隔を開けた待ち列	列などでは間隔開けの配慮がされていた…かは、サイドイベント参加のために並ぶ必要もなかったため、機会自体がなかったです。
Regular Cleaning	定期的な清掃	たぶんやっていたのではないかと。

まあ、そこそこちゃんとやっていたのではないのでしょうか。

PART3

帰国トラブル編

どこがダメだったのか わかるかな？（答えはP.70「エピローグ」にて）

NG だったラスベガスでの陰性証明書

COVID-19 に関する検査証明
Certificate of Testing for COVID-19

交付年月日
Date of issue 2021/11/22

氏名 Kondo パスポート番号 50420
Name Kondo Passport No. 50420
国籍 Japanese 生年月日 05/11/1965 性別 Male
Nationality Japanese Date of Birth 05/11/1965 Sex Male

上記の者の COVID-19 に関する検査を行った結果、その結果は下記のとおりである。
よって、この証明を交付する。
This is to certify the following results which have been confirmed by testing for COVID-19 conducted with the sample taken from the above-mentioned person.

検体採取 Sample (下記いずれかをチェック) (Check one of the boxes below)	検査法 Testing Method for COVID-19 (下記いずれかをチェック/Check one of the boxes below)	結果 Result	①結果判明日 Test Result Date ②検体採取日時 Specimen Collection Date and Time	備考 Remarks
☒ 鼻咽喉のいっしょ Nasopharyngeal Swab	☒ 核酸増幅検査 (RT-PCR 法) Nucleic acid amplification test (RT-PCR)	☒ 陰性 Negative	① Date/yyyy/mm/dd 2021/11/22 ② Date/yyyy/mm/dd 2021/11/22 Time 15:00:00	
☐ 唾液 Saliva	☐ 核酸増幅検査 (LAMP 法) Nucleic acid amplification test (LAMP)	☐ 陽性 Positive →入国不可 No entry into Japan		
☐ 鼻咽喉のいっしょと唾液 Nasopharyngeal and oropharyngeal swabs	☐ 核酸増幅検査 (TBA 法) Nucleic acid amplification test (TBA)			
	☐ 核酸増幅検査 (TBC 法) Nucleic acid amplification test (TBC)			
	☐ 核酸増幅検査 (Smart Amp 法) Nucleic acid amplification test (Smart Amp)			
	☐ 核酸増幅検査 (NEAR 法) Nucleic acid amplification test (NEAR)			
	☐ 次世代シーケンシング Next generation sequencing			
	☐ 抗原定量検査 Quantitative antigen test (RT-QuIC 法)			

* 抗原定性検査ではない。
Not a qualitative antigen test.

医療機関名 Name of Medical Institution University Medical Center of Southern Nevada
住所 Address of the institution 1000 W Charleston Blvd Las Vegas, NV 89102
医師名 Signature by doctor [Signature]

OK だったシアトルでの陰性証明書

**Quarantine Station,
Ministry of Health, Labour and Welfare, Japanese Government**

COVID-19 に関する検査証明
Certificate of Testing for COVID-19

交付年月日
Date of issue 2021/Nov 2021

氏名 Atsuko パスポート番号 50420
Name Atsuko Passport No. 50420
国籍 Japan 生年月日 05/11/1965 性別 Female
Nationality Japan Date of Birth 05/11/1965 Sex Female

上記の者の COVID-19 に関する検査を行った結果、その結果は下記のとおりである。
よって、この証明を交付する。
This is to certify the following results which have been confirmed by testing for COVID-19 conducted with the sample taken from the above-mentioned person.

検体採取 Sample (下記いずれかをチェック) (Check one of the boxes below)	検査法 Testing Method for COVID-19 (下記いずれかをチェック/Check one of the boxes below)	結果 Result	①結果判明日 Test Result Date ②検体採取日時 Specimen Collection Date and Time	備考 Remarks
☒ 鼻咽喉のいっしょ Nasopharyngeal Swab	☒ 核酸増幅検査 (RT-PCR 法) Nucleic acid amplification test (RT-PCR)	☒ 陰性 Negative	① Date/yyyy/mm/dd 2021/11/25 ② Date/yyyy/mm/dd 2021/11/25 Time 14:12:49	
☐ 唾液 Saliva	☐ 核酸増幅検査 (LAMP 法) Nucleic acid amplification test (LAMP)	☐ 陽性 Positive →入国不可 No entry into Japan		
☐ 鼻咽喉のいっしょと唾液 Nasopharyngeal and oropharyngeal swabs	☐ 核酸増幅検査 (TBA 法) Nucleic acid amplification test (TBA)			
	☐ 核酸増幅検査 (TBC 法) Nucleic acid amplification test (TBC)			
	☐ 核酸増幅検査 (Smart Amp 法) Nucleic acid amplification test (Smart Amp)			
	☐ 核酸増幅検査 (NEAR 法) Nucleic acid amplification test (NEAR)			
	☐ 次世代シーケンシング Next generation sequencing			
	☐ 抗原定量検査 Quantitative antigen test (RT-QuIC 法)			

* 抗原定性検査ではない。
Not a qualitative antigen test.

医療機関名 Name of Medical Institution Discovery Health MD
住所 Address of the institution 13075 Gateway Dr S, Ste 100
Seattle, WA 98148
医師名 Signature by doctor [Signature]

2021年11月17日（水）～11月22日（月）まで6日間のたのしいラスベガス観光の部分については姉妹同人誌の「ラスベガス2021旅行記（MTG観光編）」にまとめましたが、ここでは現地で帰国のためのコロナ検査が予定通りに受けられなかったトラブルから始まって、何とか帰国して帰宅できたまでの一連のことについて記録します。

2021 年 11 月 22 日（月） いよいよ帰国

楽しかったラスベガス観光もそろそろ終わりです。

ここからは帰国に向けて動くことにしましょう。

エルビスサンドの朝食を堪能した MTO Cafe を出て BTC（バスターミナル）に移動し 1 日券を購入してから Deuce に乗り南へ。そろそろもう 11 時ですが、まあ時間的にはまだまだ余裕。基本的には明日の帰国のためのコロナ検査を行ったうえで陰性証明書を取得するのが本日の必須ミッションです。それが終わったらあとは残り観光を楽しむだけです。

日本への旅客機に搭乗するには、搭乗 72 時間以内の検査による陰性証明書が必要です。

IC Labs が移転していました

帰国のための検査を行う場所として「ラスベガス大全」で紹介されていた IC Labs（→P.19）を念頭においていたので、Deuce を SB Las Vegas before Resorts World 駅で降りて、目の前のリゾーツ・ワールドへ。くそでっかい建物ばかりで歩くのがしんどいんだけど、と思いつつ中に入り、「ラスベガス大全」の記述を思い出しながらくそでっかいホテル内を進みます。

「ヒルトンのロビー」ってここだよな？…とか思いつつ、

その周辺を歩き回るもそれらしい入口がない。FedEx オフィスがあったので聞いても分からない。入口まで戻って「右側の通路ってこれだよな」とか確認しつつうろと 30 分くらいは歩いたことでしょうか。すでに汗だくです。



リゾーツワールド内

そのクリニックがある場所はこの夏に開業したばかりの大型カジノホテル「リゾーツワールド」の中。

館内が広いので行き方を説明しておくと、ストリップ大通り側の入り口からカジノ内に入って右側の通路をカジノを左手に見ながら奥まで進む。右手に 3 本平行に並ぶ上りのエスカレーターが見えてきたらその直前を右に入る。正面に見えてくる高級中華料理店を通り過ぎてすぐ左側に目的のクリニックがある。ヒルトンのロビーのすぐ近くと覚えておいたほうがわかりやすいかもしれない。

現場では予約することを奨励しているが、混んでいないので飛び込みでも受け付けてもらえる。詳しくは公式サイト rapidtesting.us、さらに検査の種類に関する注意としてこの週刊ラスベガスニュースの第1267号も参照にされたし。

そして施設の誰か（※この前後の記憶が飛んでいます）に聞いたところで「ああ、それなら**移転**（moved）しましたよ」という決定的な情報を得ました。この瞬間に**パニック**で目の前が真っ暗になり、しばし茫然としてしまいました。俺、日本に帰れるのかなあ…。

しかし今になって冷静に考えれば「つぶれた」のではなく「移転」なのですから「じゃあ今は市内のどこに移転したのかな」というのを公式サイトで調べれば良かっただけの話ではあったのでした。結果的にはそんなに遠い所にはなかった（下の地図の左下#805）し500mくらいの徒歩圏内だったので、これに気がついてさえいれば、おそらくその1時間後には検査を終え、予定通りに帰国できたのではないかと思います（帰国後に調べて脱力しました）。



いずれにせよ、ここでその「正解」を外した自分は、これから半日迷走したうえ、結局は後に述べる事情で1日帰国が遅れる羽目になりました。冷静になるの大事。

検査をやっている薬局を知る

検査を受けるあてがなくなり、ふらふらとリゾート・ワールドを出ようとした自分の目の前に、施設内で道案内をしてマスクも配っている割とヒマそうなカウンターの青年が目に入りました。

ここでふと青年に「この近くでコロナの検査をやっている所はありませんか？」と聞くと「**ありますよ**」という即答。えっ！　一も二もなく飛びつく自分。溺れる者は藁をもつかむ。

「この先を左に曲がって右に曲がって…」という案内を記憶できる自信はまったくなかったので白紙に地図とメモを書きながら目的のドラッグストア「walgreens」の存在を知ります。

<https://www.walgreens.com/>

青年の案内は正確で、リゾート・ワールドを出て通りを横断して何百メートルかを歩くと、目的のドラッグストアがありました。

汗を拭きながらさっそく入って、一番奥にあった調剤カウンターに行き「コロナ検査を行いたいのですが」と店員に声をかけます。



別の支店を探して歩く



店員は即座に「それはここではなく、こちらの支店でやっております」と、あらかじめ用意してあった紙片をくれました。なんだか **RPG をやっている** ような気分です。

タクシーで行けるというアドバイスを貰ったので、再度リゾート・ワールドの入口までとぼとぼ戻り少し並んでタクシーに乗りました。

ラスベガスはでかいホテルの集まった街なので、タクシーを拾うにはどこかのホテルの出入り口の送迎エリアに並ぶのが一番早く、というか流しのタクシーはなかなか拾えません。

タクシーの運ちゃんに紙片を渡して「ここまでやってくれ」と言うと、運ちゃんは住所を見て「こりやすぐ近くじゃないか。そこの交差点から1ブロックを行った先にあるぞ。歩け」ということで乗車拒否。そんな筈はないのだが…と思いつつ、そのまま歩いて交差点まで移動したうえ「こっちな」と思いつつストリップを北上します。北上している時にふと右手（東）を見ると



遠目に昨日まで三日間マジックで遊んでいた LVCC がよく見えました。激しく脱力しつつ「そういえば LVCC とリゾート・ワールドを結ぶ地下通路があると書いてあったなあ」と下調べの時のことを思い出しました。

それから次の交差点にたどり着くと角のビルは工事中。ここに至ってさすがにこれはおかしいと思い「さっきの運ちゃんは、住所をよく見ないで自分が最初に行った店のことを言っていたのだろうか」と気がつきます。もうやだこれと思いつつも、あてもないので来た道をとぼとぼ歩いてリゾート・ワールドに戻ります（だいたい 1km くらい無駄に歩きました）。

やはり頼りになるのはさっきのヒマそうな受付の青年だろうか、と思って再度話しかけ、貰った紙を見せる。青年は住所を地図で検索してくれたうえ、結局は、やはりさきほど引き返したその先にあるという情報をくれる。釈然としないが青年の行為に礼を言いチップ 10 ドルを渡して去る。

目的地の薬局に到着

釈然としなかったので、この紙をくれた最初の薬局に戻り、別の店員に「よく分からなかったのだが、この住所の店はどこにあるのか」と改めて聞くことにした。この店員もさきほどの店員と同じ方向を示したので「距離はどれくらいあるのか」と聞くと **1 マイル**ほどだと答えたとうえで

サハラの隣であるというキーワード。そういうことかぁー！疑問氷解（次ページ地図）

青年の情報は基本的には正しかったのだが距離感がまるで違い、自分がさっき挫折した交差点をさらに先に進む必要があったのだった。ていうか、これは歩いていくべき距離じゃない（笑）。正しい情報を掌握したので、気を取り直して再びストリップを北上し、Deuce バス停でバスを待つ乗車して 3 駅北上してサハラに到着する。

そしてほどなく、目的地であった薬局は発見できました。



コロナ検査の申し込み

薬局の奥の窓口に行くと、今度は何人も座って待っている人もいます。ここかな。カウンターに「コロナ**無料**検査」と書いてあったことが気になったものの「コロナ検査をやりたいのですが」と言うと「それではネットに接続してこの URL でまず予約受付をしてください」と言われます。「ネットないんですけど」と言うと「隣のサハラの無料 Wifi を使えばいいでしょ」と言われる。なるほど。

それに従ってサハラに入って、Wifi に接続してサイトを開いて予約申し込みにアクセス。問診にちまちま入力していく。当然英語なので「pregnant…ああ『妊娠してますか』の質問か」とか思いつつ問診を終えると、次に「希望する検査方法は」と聞かれたので、んー…と思いつつ画面選択肢「rapid PCR」を選ぶと「次のどこの支店での検査を予約しますか」というリストが出たので見ると**カリフォルニア支店**が表示され、目の前のラスベガスの支店がないので吹く。

ここに至って「ああそうか！ これは一般の方々への無料コロナ検査のためのサービスであって日本に帰る**飛行機に乗るための検査**ではない」と気がつきました。ふりだしにもどる。

ここに至って「もうだめだ。かくなるうへは**空港で検査を受ける**ことにしよう。これなら何とかなる筈だ。」という結論に達しました。

移転した IC Labs の存在はもう完全に忘れていました。

昼食も取らずに歩き回って 3 時間を無駄にしてしまったので現在の時刻は午後 2 時。フライトは明日の朝 7 時半だから、空港で検査をやってもまだ十分に間に合うはず。たぶん。ということで残りの観光予定は破棄したうえで、帰国モードに移行することにしました。

プレミアム・アウトレット・ノースへ

基本的にはホテルに戻ってチェックアウトして空港に向かうので、本日残りの観光予定はすべて破棄したわけですが、**妻への土産**は欠かせません。妻からは「プレミアム・アウトレットでブランドのこの財布を買ってきて」と銘柄指定で催促されていたので、これを外すわけにはいきません。そのくらいの時間もあるし、基本的には帰り道です。

なお破棄した観光予定は、

- ・ Planet13 (マリファナ博物館)
- ・ エロティック博物館
- ・ ダウンタウンの別のオモチャ屋

などです。まあ基本、どうでもいいです (笑) 。

今回の観光旅行では「なるべくタクシーを使わずバスを使う」という任務も自分に律していたのですが、さすがにこれは無視してサハラのタクシー乗り場で乗車しプレミアム・アウトレット・ノースに移動しました (サハラはストリップの北端なので、そんなにはタクシーのお金も時間もかかりませんでした) 。

プレミアム・アウトレット・ノースの案内図などが目に入らなかったものの適当に歩いていると、目の前に妻が指定したブランド「kate spade」のショップが視界に入りました。をを、これこれ。一転、なかなか調子がいいな。



次は目的のアイテム探しです。あらかじめ妻からこのショップのサイトでのスクショ画像を貰っていたので店員にそれを見せて「この財布を探しているんですけど…」と伝えると、「それでしたらあちらのワゴンに」と即答。を、よしよし。

そしてワゴンを見ると**7 割引**という掲示に心が踊ります。そして、どうやら画像と同じ色のピンクの財布もワゴンにありました。

何度も画像と見比べて「これだよな…」と確認したうえで、手に取ってレジで購入。よし土産購入ミッションクリア。

要望と違うものを買っていたらバツが悪いので、妻には土産を渡すまで「7 割引」のことは黙っていました（笑）。最終的には正解だったので明かしましたが、日本で3万円くらいのものが7千円くらいで買えたので、妻もご満悦の様様。



ホテルに戻る

妻へのミッションをこなしたことで、さすがに少々心に余裕ができてきたので、スタバで冷たい飲み物を買ってひと息入れてから、ホテルに戻って帰国モードに入ることになります。

プレミアム・アウトレット・ノースの前からダウンタウンまではバスのルートがあることは予め調べていたので、さすがにタクシーは使わず 401 バスでホテルの目の前に戻ります。

さらに下調べしていた限りでは、すぐ近くのホテル「ゴールデン・ナゲット」の近くに空港への Belltrains のシャトルバス（9.5 ドル）が来るということなので、それを利用できれば安上がりだと思ったので調べると「乗り場」のようなものは見当たらず、さらに問い合わせると「これはバス会社に電話して呼ぶ必要がある」ものだということで見送ります。さすがに小金を惜しんでこの期に及んで不確実な方法を取るよりは、手間と時間を優先しましょう。

ホテル「ゴールデン・ゲート」に戻り自分の部屋へ。ただちに荷造りをしてチェックアウトして空港に向かいましょう。

検査ツアーの存在

荷造りはできたので、あとはマッカラン空港に行きコロナ検査をやって貰う場所を探すだけなのですが、ホテル Wifi が使えるうちに検査の場所を調べておくかと思って「Las Vegas AirPort Covid Test」とか入れて検索するも、空港のそれらしい施設がヒットしません。しかし代わりに HIS や ANA がやっている「検査ツアー」の存在が出てきました。

なるほど。こういうのを利用すれば、現地業者がホテルから病院までの送迎込みの必要な全部のお膳立てをしてくれて何の苦労もなく検査をして貰って帰国できるわけですね。

まあ、おひとり様で申し込もうとすれば HIS の場合は検査代コミで 399 ドルかかるわけですが、正直なところ今日これまでさんざ苦労した身としては**5 万円なら安いかも**と思えたり。

The screenshot shows the HIS website's interface for a COVID-19 test tour. At the top, there's a navigation bar with 'HIS アメリカ発の総合旅行サイト' and links for '現地情報', 'お気に入り', '履歴', and 'カート'. Below this is a breadcrumb trail: 'オプションツアーTOP > ラスベガス > 【COVID19 アメリカ出国前72時間以内】日本語サポート付・Covid-19検査プラン 日本入国時の検査済証 明書付'. A button '← 一覧へ戻る' is also visible.

The main content area features a search bar with the text '【COVID19 アメリカ出国前72時間以内】日本語サポート付・Covid-19検査プラン 日本入国時の検査済証明 書付'. Below the search bar, it says 'アメリカ出国前、日本再入国用のコロナ検査サポートはお任せください！'.

On the left, there's a promotional banner for 'ラスベガスコロナ検査' (Las Vegas COVID-19 Test) with the text '検査サイトへのご案内' and '安心の日本語ガイドと現地待ち合わせ'. It also mentions '日本入国時の検査済証明書' and shows an illustration of two people.

On the right, there's a summary of the package: '★★★★★ クチコミを見る (1)' (1 review), '代金 US\$265～', and '2時間時間 ラスベガス発'. Below this is an orange button '予約する' (Book).

At the bottom, there's a table titled 'プラン一覧' (Plan List) showing different options and their prices:

プラン	価格
4名以上のご参加の場合	US\$ 299
6名以上のご参加の場合	US\$ 265
2～3名のご参加の場合	US\$ 339
1名のみのご参加の場合	US\$ 399

いっそ今ここで電話を、とも思ったものの、今回買ったSIMは電話もまともにつながらなかったのがこれは見送り。まあ、自分で何とかしましょう。

荷物を引いて、部屋を出てフロントでチェックアウト。

まだ16時前なので今日ここに宿を取った意味はほとんど無かったな…と思うも、仕方ありません。

ゴールデンゲートホテルを出て、通りを横断して目の前のタクシー乗り場でタクシーを拾って、空港に向かいます。

あとは空港で帰国のために必要な検査ができれば、基本、朝まで空港で時間を潰すだけです。さて、どうかな。



空港のPCR検査

タクシーには「デルタ航空」と伝えてあったので、空港に到着して入口を入るなりデルタ航空のカウンターが目の前に。ここで係員に「明日朝の便で日本に帰国するのですが」と伝えつつ一応日本で取得した陰性証明書を見せると「72時間以内のものがが必要です」と言われたので「分かりました。いますぐ空港で検査をしたい」というと、ただちに話が通じました。これはありがたい。

しかもどうやらこのまま検査を行って出国し、帰国できそうだ。**大きな安堵。**

~~ヒマなのか~~言葉も不慣れな日本人と見たためか、デルタの受付の女性係員はカウンターを離れて検査を行う University Medical Center (UMC) の受付の前（エレベーターで1フロア上り、少し歩いた所にありました）まで自分を案内してくれ、そのまま手続きの完了まで見守ってくれました。大きく感謝。

UMCの係員に言われるまま同意書などにサインをして、各種の書類に記入し、記入した自分のアドレスに先方からのメールが送信されたのを確認したうえで、料金200ドルをカード決済。

そのまま中に入り鼻ぬぐいの検査。

						
Guarantor	Kondo #3417183			Patient	Kondo	
Receipt #	683783			11/22/21		
11/22/21	Account #	Appt/Admit Date	Type	Source	Reference	Payment
	Future	11/22/2021	Other	Credit Card	124557 Visa x2267	\$200.00
Total Amount:						\$200.00
Total Paid						\$200.00

検査自体は5分もかからず終了。

「結果は1時間後くらいに先ほどのメールアドレスに送付されます」ということでUMCを解放されたので、フロアを戻って先ほどのデルタ空港のカウンターに戻り「終わりました」と連絡。

QRコード

検査終了に安堵しつつ、カウンター近くのベンチに座って飲み物など飲みつつ一息ついていると、係員が近づいてきて「QRコードは取得していますか」と聞いてきます。何ですかそれと聞くと、厚労省のサイトのURLを提示してきました。

<https://arqs-ga.followup.mhlw.go.jp/#/>

（ここにアクセスすると分かりますが）これは日本入国の際の入国手段や個人情報についての質問票であって、これに回答を済ませることでその情報がQRコードとして記録され、これを読み込ませることで必要な手続きを行うというものなのです。後で分かりますが日本ではこれを入国の情報として極めて重視しており、これを提示しなければ決して通してはくれませんし、ことあるごとに「QRコードを」「QRコードを」と求めてもきましたので、自分は最初にQRコードを獲得できた時点でそのスクリーンショットを撮って、以後はそれを「ピクチャ」のフォルダから開くことで済ませました（無問題）。どうでもいいのですが「何のQRコード」なのかを抜いて「QRコード」だけで通じていたのが、なんだか面白かったです。計算機という意味が抜け落ちた「電卓」みたいで。また厚労省の「MySOS」アプリも必要なのでインストールしておけと言われたので従いました（URLは次から）。それなりに「日本向け」に必要なことはラスベガスのデルタ航空にも周知がされているのだなと思いました。

<https://www.hco.mhlw.go.jp/>



チェックイン終了

そうこうするうちに1時間が経過しメールが到着しました。あらかじめ作成しておいたUMCのサイトの自分のアカウントでログインし、無事に先ほどの検査の陰性証明書をスマホに表示させることができました。ここでPDFをダウンロードしておくのをすっかり忘れたのですが（伏線）。それを受付に見せることで承認され、荷物を引き受けて貰い座席未定チケットが発券されました。どうやらこれで無事に帰国できそうです。PUIPUIも歓喜。



さらばラスベガス



とどまる理由ももうないので、セキュリティも通過してシャトルに乗ってゲート前へと移動。さらばラスベガス。次に来るのは…マジックの大会次第だろうけど3年後くらいかなあ…。

18時過ぎにゲートD41前に到着。次の問題は、あと12時間くらい、ここでどのようにヒマを潰すかであるとも言えますね（笑）。

エッグロールの夕食

とりあえずこの騒動で昼飯を食べていませんでしたので夕食にしましょう。朝食はあのエルビスサンドを11時にだったし、疲れて食欲もそれほどないのですが、腹に入れなければなりません。というわけでゲート前のレストランを散策して「ここはまだ入ったことがなかったな…」という

レストラン「chili's」に入ります。

とりあえずスプライト（おかわり自由）を頼み、それほど腹も減ってなかったので、メニューのカロリー表記を見ながら料理でなくサイドメニューのEgg Rollsを注文。しばらく待ってから到着。



「ふん。エッグロールかい。贅沢な名前だね。お前の名前は春巻だよ」と思いつつ口にする。かなり辛い肉や辛子詰め。今の自分の胃腸にはこれでもやや重く感じるも、完食。辛いのは好きな自分なのですが、唐辛子の辛さではなくチリペッパーの辛さって、いまひとつ自分の好みじゃないんだよね…（どう違うのかというツッコミは甘受します）。

有料ラウンジへ

夕食を終えても、明日の朝のフライトまで12時間あります。これまで意識していませんでしたがマッカラン空港の椅子は手すりがない横になれない糞な仕様であり、現在の疲労のコンディションのままベンチに座って半日を潰すのはキツイなというか、腹が膨れるなり**猛烈に睡魔**が襲ってきたし、とりあえず横になれる場所だけでも欲しくなりました。





そこで有料のラウンジを探すと「THE CLUB LAS」が目に入りました。ゴールドカードがなくても誰でも利用できる1日チケットが33ドル。

係員に「横になって眠れそうですか？」と聞くと「中に入ってご自分で確認してからどうぞ」と言われたので、その通りにしてから問題なしと判断。フリードリンクと軽食がついて12時間眠れるようなら33ドルでも文句ないです。さっそく料金を支払って（カード払い）入場。飲み物を取って、バーの奥に横になれるソファと電源を確保できる場所を発見したので、荷物の置き場所に注意しつつ横になるなり、たちどころに爆睡。ぐう。

…気持ち良く寝ていたところを「閉店なので起きてください」と起こされます。ん？このバーは早く閉めるのかな？と思ったらラウンジ自体が21時に閉店でした。

「えーっ？空港のラウンジって24時間営業なものじゃなかったの？」と思ったのですが、どうもそうでもなかった模様。ともあれ追い出されました。

気持ち良くぐっすり眠れ頭もすっきりしたので後悔はしていないのですが、**90分33ドル**はあんまりコスパが良くなかったな…。

深夜の時間つぶし

気が付けばレストランの類も続々と閉店に入っています。ってことは施設内のスーパーも24時間営業じゃないな？と気が付いたので、慌てて確認するとやはりの22時や23時過ぎに閉店。そうすると下手をすると朝まで喉の渇きに苦しむ可能性もあるなと思ったのでスーパーでドリンクと甘味としてM&Mを購入（塩気はたくさんポテトチップスが残っていました）。

日本なら「喉が渴いたら自販機の飲料」でいいんですが、マッカラン空港では飲料の自販機は見当たりませんでした。あっても硬貨しか受け付けず使えないとかも珍しくないけど。なお、空港内のペットボトル飲料は市内より輪をかけて高いです。1本5.5ドルとか気絶しそう。

まあどうしても喉の渇きに耐えられなくなったら空港施設内の隅っこにある「飲用水ベンダ」を利用する手もあるんですけど、できればそれを飲みたくもなく…。

基本的には時差ボケ解消を考えれば無理に眠らないほうが良さそうでもあるので電源を確保したうえで、日本時間は火曜の夕方でもあるのでだらだらとツイッターをしたり、適当にソシャゲをダウンロードして遊んでいました。ソシャゲの大半はつまらなかったのですねアンインストールしました。

誰もいない午前2時半のマッカラン空港。ここは泊まるところではないなの思い。こんな事情でもなければ、市内のカジノで遊んで2時間前に空港に来るのが正解なのでしょう。

眠らない町ラスベガス（ただし空港を除く）。

2021年11月23日（火） マッカラン空港の朝食

午前5時を回ると、ぼつぼつゲート前に人が集まってきました。朝7時半のフライトを購入していた自分も、本来はこの時間頃に空港にくる予定でした。



いつの間にか店舗も開いていたので、スタンドで朝食にします。卵とチーズ入りステーキサンドで8.5ドルは格安じゃないかな？

暖かいものを食べて元気も出ました。

デルタ航空 D41 カウンターも開いたので、昨夕に受け取った座席なしチケットを、ラスベガス-シアトルとシアトル-羽田の座席つきチケットに変換して貰います。あとはこれに乗れば終了。

午前7時になり、なにごともなく搭乗を開始しました。では次は3時間後のシアトルの空港で。

ラスベガス-シアトルのデルタ航空 2148 便は普通に離陸でき、2時間40分のフライトを終えて定刻通りの10時08分シアトル・タコマ空港に到着しました。機内では飲物とスナックをつまみ、あとは寝ていただけなので特に記すべきことはありません。あとは11時20分発のデルタ航空 167 便に乗れば日本へ帰国です。

シヤトル搭乗前の書類チェックに失敗

もともと乗り継ぎ時間が1時間くらいしかなかったもので、速足でシヤトルを乗り継いで汗だくでゲートS15に到着したときにはすでに搭乗手続きが始まって、というよりは終わりかけており、カウンター前で書類チェックをしている数名以外の列はなく自分が最終搭乗者のようでした。汗を拭きつつ自分のチケットを見せると「では72時間以内の陰性証明書をお願いします」という話になったので、ではさっそく昨夜の検査結果を…と思ったのですが、紙ベースの陰性証明書は所有していなかったわけなので、昨夜はアクセスできたUMCのサイトにログインしようとしたらつながらず、昨夜は確認できた検査結果(→P.42)を提示できませんでした。

帰国後に改めてアクセスしようとして「パスワードのリセット」が必要だったので、おそらく昨夜ラスベガスで設定したパスワードがよく使うパスワードの使い回しではなくて別のものに設定したうえで(たぶんメリケンのサイトを警戒したのだと思う)、さらに1回接続できたら陰性証明書を確認して安心して呆けてしまいそのパスワードを忘れた、というのが事実の模様。いったい何をやっているのか俺。というよりもここでの自分の最大の失敗は、昨夜はログインできた際に画面に表示されたその検査結果を、サイトからPDFとしてダウンロードするとか、**せめてスクショ**を撮っていれば良かっただけなのにね、という話です(伏線回収)。昨夜はあれほど空港でヒマを持て余していたのだから、パスワードのリセットを含めてそれをやる時間はいくらでもあったわけなのですからね…。

「陰性証明書を提示できなければ搭乗できませんね」という係員の言葉(日本語が普通に通じる、たぶん日本人女性)に「ちょ、ちょっと待ってください!」と言ったり、その横のカウンターで「デルタ航空167便に搭乗予定の近藤様…」とアナウンスがかかったので「あ、それ僕です」と即座に声掛けをしたり。端的に言ってデルタのスタッフには何も非はなく**全部俺が悪い**。

「あと10分くらいは待てます」(他の乗客すまん…)

「そうだマッカラン空港に電話で問い合わせさせて貰えませんか」

「それはちょっと」

「では昨夜検査をしたクリニックに電話で」

「そこの電話番号をお願いします」

ごそごそと書類を探して(1分ほどロスタイム)、昨日貰ったUMCの領収書(→P.40)の電話番号を伝えます。係員はその場で電話をかけ、UMCと話してくれました(英語)。

UMC に記録は残っているだろうし、ようやく一件落着かな…と思ったら何やら言い争いのようなやりとりがあり、聞きなれない単語の確認を何度もしたうえ電話を切りました。どうでした？と

聞くと係員は「**この検査結果ではこの便に搭乗できません**」という回答。

ええええええええええええええ？ナンデ何で？と当然ながら質問する自分。

係員は「日本の入国チェックはとても厳しいんですが」と前置きしたうえ、次の内容のプリントアウトを見せてくれました（これは厚労省のサイトにあります）。

※ 有効な検体、検査方法等が記載された検査証明書のみ有効と取り扱います。

＜有効な検査証明書として認められる要件＞

＜有効な検査証明書として認められない主な例＞

検体

- Nasopharyngeal/Nasopharynx (Swab/smear)
- Rhinopharyngeal/Rhinopharynx (Swab/Smear)
(鼻咽頭ぬぐい液)
- (Deep throat) Saliva
(唾液)
- Nasopharyngeal (※) (and /, /+) oropharyngeal(throat) (swabs /smear)
(鼻咽頭ぬぐい液・咽頭ぬぐい液の混合)
(Naso and oropharyngeal/Rhino and oropharyngeal/oro and nasopharyngeal (※))
(※Nasopharyngeal/Nasopharynx/Rhinopharyngeal/Rhinopharynx)

- × Nasal (swab/smear) (鼻腔ぬぐい)
- × Oral (swab/smear) (口腔ぬぐい)
- × Throat (swab/smear) (咽頭ぬぐい)
- × Mid-Turbinate Nasal (swab/smear) (中鼻甲介ぬぐい)
- × Nose (鼻ぬぐい)
- × Gargle Water (うがい液)
- × mixture of sample "A" and "B"
(「鼻咽頭ぬぐい液と咽頭ぬぐい液の混合検体」を除く、複数箇所から採取した検体の混合検体)
(なお、「A」、「B」は検体を指す)

<Example>

- × Nasal and throat (swab/smear) (鼻腔・咽頭ぬぐい)
- × Pharyngeal and nasal (swab/smear) (咽頭・鼻腔ぬぐい)
- × Nasal and oropharyngeal/oropharynx (swab/smear)
(鼻腔・口腔咽頭ぬぐい)

検査方法

※下記の方法、もしくは検査手法名を含む方法

- Nucleic acid amplification test ((RT-) PCR)
核酸増幅検査 ((RT-) PCR法)
(real-time (RT-)PCR、Q-PCR、Fluorescence-PCR、Multiplex-PCR)
- Nucleic acid amplification test (LAMP)
核酸増幅検査 (LAMP法) (RT-LAMP)
- Nucleic acid amplification test (TMA)
核酸増幅検査 (TMA法)
- Nucleic acid amplification test (TRC)
核酸増幅検査 (TRC法)
- Nucleic acid amplification test (Smart Amp)
核酸増幅検査 (Smart Amp法)
- Nucleic acid amplification test (NEAR)
核酸増幅検査 (NEAR法) (例: ID-NOW®)
- Next generation sequence
次世代シーケンス法
- Quantitative antigen test (CLEIA/ECLEIA)
抗原定量検査

× Antigen (test/kit)
(抗原検査)

× Rapid antigen (test/kit)
(迅速抗原検査)

× Antibody (test/kit)
(抗体検査)

「日本行きの便に搭乗するためには、この表の左側の『検体』採取方法と『検査方法』を満たさなければならず、右側のものだとダメなんです」

「先ほど電話で何度も確認したところ、昨夜のあなたの検体採取方法はこの Nasopharyngeal（鼻咽喉ぬぐい液）ではなく Nasal（鼻腔ぬぐい）だということでした。これではダメです」

そんな馬鹿な。あり得ない！ と思ったものの、それが事実であるのなら覆りようもないので抗わず、デルタ航空 167 便の搭乗見送りに自分も同意しました。目の前で閉まるゲート。

これからの帰国手順

係員は「ここで搭乗できなかったひと今日も多かったんですよ」「マッカラン空港のデルタにも強く申し入れておきますけど、日本への直行便のない所はどうしても」と慰めてくれました。

とりあえず「UMC は 200 ドル返して欲しいな…」と思ったものの、気を取り直して「それでは、これから自分はどうすれば日本に帰れるのでしょうか」と係員に聞きます。

係員は手慣れたもので、即座にてきぱきと「はい。まずは一番早い、今夜発のデトロイト経由便またはアトランタ経由便の羽田行きをカウンターでリブック（再予約）してください。搭乗前にラスベガスでお預かりしたお荷物は、そのままそちらに寄せ換えて羽田空港で受け取れるように手配します。リブックは無料で行えます。」と教えてくれます。無料なのはありがたいな。

隣の係員との「明日のシアトル発の羽田行きでも良いのでは」「明日の便はないですよ」という会話もありました。やはり 2 日に 1 本に減便しているのでしょう。

それから「リブックが終わったなら、日本向けの検査を行えるクリニックで再度の検査を行ってください。」と言いつつ窓の外を指さして「あそこに見える、あの大きな建物が『W tree Hotel』ですが、あのホテルの隣にある『Discovery Health』という病院で日本向けの検査を行っています。申し込みの際には『To Japan』と言えば、日本行きの便の搭乗に必要なすべての陰性証明書なども整えて検査をしてくれるでしょう。ここからは徒歩で 10 分くらいです。時間は充分にあります」と必要なすべての情報をくれました。それを全部メモしてから、お礼の言葉を言ってカウンターを後にします。

総じて完璧な対応だなと思いました。デルタの係員のお姉さん愛してる。

デトロイト経由の羽田行きをリブック

気を取り直して階下のデルタのカウンターに向かって、係員に「先ほどの羽田便にコロナで搭乗できなかったので、代わりの羽田便をリブックしたい」と伝え、特に誰何されることもなく即座に発券されました。この辺の情報はたぶんパスポートに紐づいてカウンターで照会できるのでしょうね。今夜 23 時にシアトルを出るデトロイト行きの便、デトロイトで 6 時間の待ち時間のあとの明日 12 時 20 分発の羽田行きの便です。羽田到着は 25 日（木）の午後 3 時 25 分の予定。どうやらまる 1 日の遅れで帰国できそうです。

デトロイトとアトランタのどちらにしますかとは聞かれませんでした。まあ単純に、日本にはデトロイトのほうが近そうです（アトランタはさらに南なので。表 4 参照）。

つまり（日時は現地時刻で、日本と米西海岸との時差-17 時間、米東海岸との時差-14 時間）。

復路	Delta 1602	2021 年 11 月 23 日（火） 23:00	シアトル（SEA）発	4h04m
		2021 年 11 月 24 日（水） 06:04	デトロイト（DTW）着	
	Delta 275	2021 年 11 月 24 日（水） 12:20	デトロイト（DTW）発	13h05m
		2021 年 11 月 25 日（木） 15:25	羽田（HND）着	

ダブルツリーホテルへ

リブックを終えると 13 時。シアトル発の便は夜中の 23 時。まだ、慌てる時間じゃありません。検査を終えたらシアトルの街に出て夕方まで市内観光する時間くらいはありそうです。ロンさん元気かな？ いやまあ、そこまで心の余裕はないのでやりませんけど。

本書の主旨には無関係なのですが、ロン（Ron Foster）さんというのは自分とも知己のある、シアトル在住のマジック関係者です。2 年前の「MF シアトル 2019 参加記」にもしばしば登場しました。今回の MTG Vegas にも来るようなら、会えるかなとも思ったのですが。

まだそれほど空腹も感じないので、昼食は検査を終えてからにしましょう。それでは目的のクリニックに行くべくシアトル空港を出ることにします。

とりあえず W tree Hotel を目指そうと思うも、方向もさっぱり分からないのでタクシー乗り場へと向かいます。「そういえば2年前にシアトルに来たときもこの空港のただっぴろい駐車場で苦労したんだよなあ」と思い出してタクシー乗り場を発見。係員にさきほど書いて貰ったメモを見せて「W tree Hotelに行きたいんだけど」と伝えると係員は「あっちに歩くとすぐですよ」

「ホテルのシャトルバスに乗せて貰うのもいいですよ」と言ってきたので、**よせばいいのに**それを聞いてしまって今来た所を引き返してシャトルバスの乗り場を探すも見つかりません。

っていうより、このシアトル・タコマ空港のこの辺はやたらと複雑なんです。「それは通りを渡ったあそこですよ」とか言われても、通りを渡るには一度上のフロアに上がって空中通路を通る必要とかもあるし！ 一見さんには無理。空港の外へ出る方向や経路もよく分からないし。

20分くらいは無駄に歩いてしまったうえで、結局はさっきのタクシー乗り場に戻り、係員には「道も分からないし疲れたので W tree Hotel までタクシーをお願いしたい。金は出します」と伝えます。係員は「40ドルくらい請求されるんじゃないかなあ」とか言うもそれでもいいですとタクシーを呼んで貰います。

乗車したタクシーの運ちゃんに「W tree Hotel」と伝えると「すぐそこだよ」と言うのですが、重ねて「すまない。疲れているし道が分からないので」と伝えると、タクシーは発進しました。

そのまま500mくらい進んで「あそこだよ」ということで目的のホテルに到着しました。

運ちゃんは「メーターは20ドルだけど、空港からだ**空港に16ドル取られる**んでチップくれ」と言ってきます。なるほど先の「40ドルくらい」というのはそういう意味か。納得してチップ10ドルを加えての30ドルを渡します。にこやかに去るタクシー。



Copyright: Google

空港の係員も「W tree Hotel」と書いていたのですが正式名称は「DOUBLE TREE HOTEL」のようですね。なお、写真を撮り忘れたので上の画像はGoogleストリートビューからのものです。

Discovery Health へ



目的のクリニック「Discovery Health」は「ダブルツリーホテルの隣」という情報を得ていたものの「隣ってどっちの」という疑問が当然に出たので、ダブルツリーホテルに入ってフロントで聞くと、「このホテルを出て左です」という情報を得たのでホテルを出て左に歩いてくと歩きだしました。しかし当然ながらホテルの駐車場などを横目に何百メートルかを歩く羽目になったので「…しまった。シャトルバスとかでなくタクシーだったのだから、最初からダブルツリーホテルではなく Discovery Health まで行ってください」と運ちゃんに言えば

良かったではないかとほどなく気がつくも遅い（笑）。それはそれとして、しばらく歩き待望の Discovery Health に到着しました。これで無事に検査を済ませられればミッションクリアです。

検査を受ける

Discovery Health に入り受付に「日本に渡航するためコロナ検査をお願いします」と言うと即応されます。こちらは焦って進めようとするものの、先方には「まあまあ、落ち着いて」とばかりに指示されるままに、向こうのサイトのアカウントを作成するための必要事項をタブレットで入力し、メールアドレスなども登録しアカウントへのログインも確認します（今度はパスワードは忘れるなよ！）。

受付を終えると表を示されて「それではこの中

**TEST TIMES MAY VARY AND ARE NOT GUARANTEED			
Test	Cost	Results	Test Type
RT-PCR [Cepheid & Accula]	\$246.00	1 hour – 1 hour 10 mins	• RT-PCR Molecular
NAAT Molecular Test [Abbott ID NOW]	\$206.00	30 mins – 40 mins	• NAAT Molecular • NOT PCR
Lab-Based RT-PCR	Same Day \$186.00 Next Day \$176.00	Same/Next day results— midnight at latest.	• RT-PCR Molecular
Rapid Antigen Test [BD Veritor]	\$150.00	15 – 20 minutes	• NOT PCR • NOT MOLECULAR *NOT ACCEPTED IN JAP. *NOT ACCEPTED IN CAN

TEST	RT-PCR	MOLECULAR	ANTIGEN	LAM
RT-PCR	X	X		
NAAT Molecular		X		
Lab-Based RT-PCR	X	X		
Rapid Antigen			X	

から検査方法を選んで、お支払いをお願いします。日本への渡航で認められている検査方法は、このうちの1番目と2番目です」と言われます。そこで1番目と2番目をしげしげ比較します。

1 番目	RT-PCR [Cepheid & Accula]	246 ドル	1 時間～ 1 時間 10 分
2 番目	NAAT Molecular Test [Abbott ID NOW]	206 ドル	30 分～40 分

正直なところ書いてある単語はぜんぜん分からなかったのですが、どうやら1番目はPCR検査で2番目はPCR検査ではないらしいことは分かりました。PCRでなくていいの？と疑問を抱いたものの、何度見ても1番目よりも2番目のほうが**安くて結果が出るのも早い**。本当にPCRでなくてもいいの？と思いつつ相手に「日本では1番目か2番目なんですね？」と重ねて聞いた（たぶん5回は聞いたと思います）うえで2番目を選択して206ドルを支払いました。あとは少し待ってから検査を受けました。担当のかたが綿棒をこちらの鼻に突っ込んでから、ゆっくり「One, Two...」と数えながら15回回していたのが面白かったです。あとはしばらく院内の片隅で待ちます。「ここは待合室ではないので車の中で結果を待て」とか掲示してあり、意図的にでしようが椅子もない中を立ってしばらく待ちました。小一時間後に結果を受け取ります。陰性は当然のこととして、メールで受け取ったリンク先からログインして結果を参照できそうでしたが、安心の紙のプリントアウトもついてきました。

どうやら今度こそ飛行機に乗れそうだな…と思いつつ Discovery Health を出て空港に戻ります。

さすがに目の前の空港に戻るだけであるので、今度はタクシーなどには頼らずに徒歩で戻ることにしました。

まあ、確かに知っていれば空港の「目の前」の歩ける距離でしたね。さらに言えばホテルより病院の方が近かったです（笑）。





Quarantine Station,
Ministry of Health, Labour and Welfare, Japanese Government

COVID-19 に関する検査証明
Certificate of Testing for COVID-19

交付年月日
Date of issue 23 Nov 2021

氏名 Kondo パスポート番号 [REDACTED]
Name [REDACTED] Passport No. [REDACTED]
国籍 Japan 生年月日 11 May 1965 性別 Male
Nationality Japan Date of Birth 11 May 1965 Sex Male

上記の者の COVID-19 に関する検査を行った結果、その結果は下記のとおりである。
よって、この証明を交付する。
This is to certify the following results which have been confirmed by testing
for COVID-19 conducted with the sample taken from the above-mentioned person.

採取検体 Sample (下記いずれかをチェック /Check one of the boxes below)	検査法 Testing Method for COVID-19 (下記いずれかをチェック/Check one of the boxes below)	結果 Result	①結果判明日 Test Result Date ②検体採取日時 Specimen Collection Date and Time	備考 Remarks
☒ 鼻咽頭ぬぐい液 Nasopharyngeal Swab	☐ 核酸増幅検査 (RT-PCR 法) Nucleic acid amplification test (RT-PCR)	☒ 陰性 Negative	① Date (yyyy / mm / dd) <u>2021/11/23</u>	
☐ 唾液 Saliva	☐ 核酸増幅検査 (LAMP 法) Nucleic acid amplification test (LAMP)	☐ 陽性 Positive → 入国不可 No entry into Japan	② Date (yyyy / mm / dd) <u>2021/11/23</u> Time <u>12:49</u> <u>PST</u>	
☐ 鼻咽頭ぬぐい液と咽頭 ぬぐい液の混合 Nasopharyngeal and oropharyngeal swabs	☐ 核酸増幅検査 (TMA 法) Nucleic acid amplification test (TMA)			
	☐ 核酸増幅検査 (TRC 法) Nucleic acid amplification test (TRC)			
	☐ 核酸増幅検査 (Smart Amp 法) Nucleic acid amplification test (Smart Amp)			
	☒ 核酸増幅検査 (NEAR 法) Nucleic acid amplification test (NEAR)			
	☐ 次世代シーケンス法 Next generation sequence			
	☐ 抗原定量検査* Quantitative antigen test* (CLEIA/ECLIA)			

* 抗原定性検査ではない。
Not a qualitative antigen test.

医療機関名 Name of Medical institution Discovery Health MD
住所 Address of the institution 13075 Gateway Dr S, Ste 100
Seattle, WA 98168
医師名 Signature by doctor [Signature]

ANN JARIS, MD, MBA, FACEP
NPI # 154325751
WA 000042023
An imprint of a
seal

これが勝利の鍵だ！

セキュリティーチェックに引っかかる

空港に戻ると 14 時過ぎ。さすがに必要な手はすべて打ってやることは特になし、今夜の便は 23 時なので時間的にはシアトルのプチ市内観光も可能ですが、もちろんそんな気にはなれません。ていうより単純に疲れています。昨日ラスベガスのホテルを出てそろそろ 24 時間が経過しますし、着替えておらずシャワーも浴びておらず、自分の睡眠が足りているのかも、自分が空腹なのかもあまり分からない、やや危険な状態です。

そこでまずは進める所まで進んでから休もうと判断したうえで、デルタ航空のカウンターへ。先ほど取得した陰性証明書で OK を貰いつつ、リブックした結果に基づいた 2 枚のチケットを発券して貰います（座席指定はまだ）。

ゲート前に移動すべく、セキュリティーを通過しようとする、なぜか荷物チェックに引っかかりました。あれ、何だろう？

係員が荷物から「**これは何ですか？**」と取り出した物を見せられて変な笑いが出ました。「ウルトラクイズの帽子」のユニットでした。



確かにこれは電池が入っており謎のボタンもついている機械で、何かの**起爆装置**に見えなくもありません。すでに 3 回乗っていて引っかかったのは今回が初めてですが「ああ、これは日本のテレビ番組のおもちゃで、これを押すと『ポーン』と鳴って…日本人の方がいれば分かるのではないかと思います」と伝え、係員は奥にそれを持っていきました。

正直なところ役目はもう終えたいし没収されてもいいや…と思って少し待つと、戻ってきた係員は「OK」と言って返してくれました。セキュリティーを通過。

奥に日本人スタッフが居たのかどうかはよく分かりません（笑）。最後までネタを提供してくれた「ウルトラクイズの帽子」でした。

シアトルの空港ラウンジへ

無事に入れましたので、23 時デトロイト行きの便の出る A5 ゲートに行き、その位置を確認できました。23 時の便の搭乗券（座席番号付き）は 22 時に発行されるようなので、あと 7 時間くらいはやることはありません。

ヒマではあるので「的確なアドバイスをくれた S15 カウンターの係員のお姉さんに『取れたよ〜！』とお礼を言いにくいかな」と一瞬考えたのですが、S15 カウンターはここからシャトルで移動の必要もあるし、そこまでの元気はないし何より今あそこに行っても次の便の間際でもないんだから居るわけがないだろうと気がついたので、このプラン中止。

そろそろ昼飯にすべき時間でもあったもののレストランのがつつり飯を食べたい気持ちでもないで「ラウンジの軽食でいいや」ということでラウンジを探します。横にもなれるし。

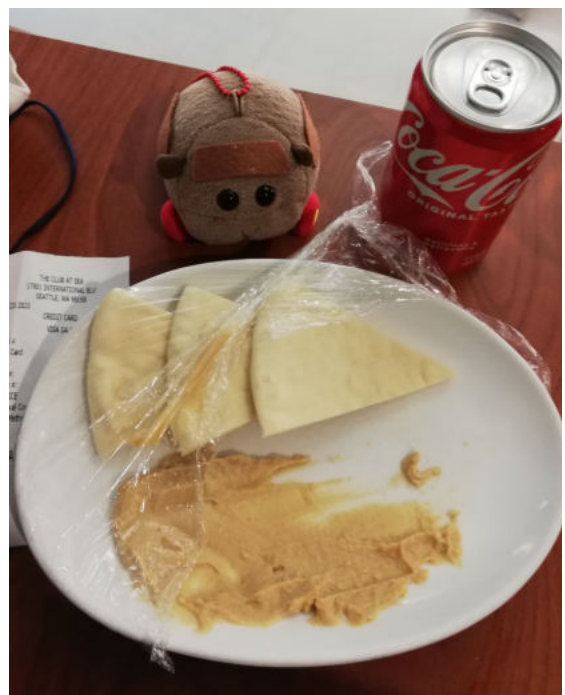
ほどなくラウンジ「THE CLUB AT SEA」を発見。

ラウンジの 1 日利用は 33 ドル。そしてラウンジの終了時間は 21 時。これはむしろ眠りこけても 21 時過ぎに**起こして貰える**わけか。たいへん好都合。即座に支払いをして 16 時に入場。



軽食と睡眠

それほどには食欲はないものの空腹感はあるので、ラウンジの軽食で一皿貰います。ぼけた頭ではよく内容を特定できなかったのですが、これは小麦粉を焼いたものにタンパク質の何かがサンドしてあって、薄茶色のペーストはピーナッツバターではなく何か肉の味がするすり身のようなものですね（何という貧困なボキャブラリーなのか）。



アジアン系の何かかな？悪い味ではないです。ぱくぱく。

軽く腹がふくれたので、そのままソファーに横になるなり爆睡します。ぐう。

…ぐっすり眠ってから目覚めて時計を見ると
17 時半。1 時間半しか寝ていない計算になりますが、すっきりとしました。

腹も減ってきました。いい傾向です。

再度フードコーナーに行って、先ほどは中央の
一皿を貰ったので、今度は「その右側のヤツを
ください」とお願いします。



コロナ対策のため、料理は自分で取るものではなく、係員に言って取って貰うスタイルでした。
写真には映り込んでいませんが、ロープが張ってあり直接は近寄れない仕組みです。



内容を確認しないまま頼んで受け取ったのですが、
鶏肉と野菜の煮つけが白飯にかけてありました。

さっそく席に戻り食べました。**うめえ。**

味付けは和風というより中華風っぽいのですが、
ともあれジャポニカ米のごはん。しみわたります。
もりもりと力が湧いてきました。

たちどころに一杯たいらげて**おかわり**を要求。

今度は横のスープもつけてみました。

うん、やっぱりこれは和風というよりは
中華風なのかな…。

さすがに三杯目は自重したものの満腹。
時計を見ると 18 時。ではあと 3 時間は
寝ましょう。ぐう。



まずはデトロイトへ

1 時間してからまた目が醒めて、朝から薬を飲み忘れていたのに気が付いて慌てて飲んでからまた寝直したりしつつしているうちに「あと 10 分でラウンジを閉めます」というマイクのアナウンスで起こされました。体力もだいぶ回復したので、そのまま支度をしてラウンジを出ます。今回の 33 ドルはだいぶ元が取れた感じです。



A5 ゲート前に戻ります。フライトまであと 2 時間なので、さすがにそこそこ人がいます。あとはここで時間を潰しましょう。

そういえば会社には「何もしなければ水曜の夜に帰国して木曜は通常勤務の予定です。会社サーバには接続しませんので、もし何かあったらこのメアドまで」と伝えてから一切連絡を取っていませんでしたが、まさに何かあり今は日本は水曜の夜。このまま木曜が**無断欠勤**になってしまうのはさすがにマズいので、スマホから上司の会社アドレス宛に 1 日遅れますメールを出しました。



22 時前に A5 カウンターにデルタの係員が来たので搭乗券（座席つき）を発行して貰いました。昼に聞いていた話とは異なって、デトロイト行きの搭乗券だけでなく、デトロイトから羽田までの搭乗券も一緒に渡されました。なんだか、やっと日本に帰れるのだなという実感が沸いてきました。

22 時 20 分過ぎ搭乗開始。自分の番で搭乗券をスキャナにかざすとエラーになります。すこし青くなって「もしかして陰性証明書の確認を電子的に行う必要があったのかな」とか思うも、どうやらただのシステムの不備らしかったようで（デルタにはよくあること）、少ししてからまた試したら、普通に通過でき、搭乗できました。次はデトロイトです。

2021年11月24日(水) デトロイト行きの機内

予定23時より少し遅れデルタ1602はシアトルを発ちました。デトロイトまで4時間です。ほとんどアメリカ大陸を横断する割には、それほどはかからないものなのですね（それは北寄りだからです）。零時を回る頃に機内でスナックと飲み物を貰います。そういえば今は西海岸時間だから水曜の零時だけど、デトロイトは東海岸時間だから午前3時。さらには日本時間は17時です。時計を東海岸に合わせます（ここからは東海岸時間で記します）。



デトロイトの朝食

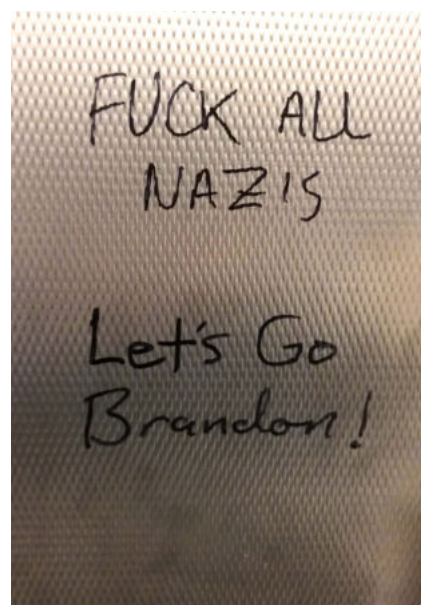
朝の6時半にデトロイトに到着。まだ真っ暗です。あとはここで6時間を潰して、12時20分の羽田行きのデルタ航空275に乗るだけです。今度こそ書類審査はクリアできるだろう、というのはあるのですが、これ以上は心配しても仕方ありません。朝食にしましょう。

マクドナルドでいいや、と思ったらすごい行列。まあ、他の店も開いてないしね。

並ぶ前にトイレを済ませようかと思って入った個室の落書き。なんだかデトロイトを感じました。

前半は説明不要ですが、後半「Let's Go Brandon！」の意味がよく分からなかったのが調べたのですが、どうやらこれはバイデン大統領を罵倒する隠語らしいです。

トイレから出てマクドナルドに並び、注文して受け取ります。ソーセージエッグマフィンとハッシュドポテトにコーヒーのセットで8ドル。日本なら「高え！」な値段ですが「基本は日本の倍づけ」なメリケンでは「まあこんなもんだろう」なお値段。何よりも味は世界のマクドナルドで、日本でも慣れ親しんだ味です。この安心感がだいじ。





食事を終えると朝の7時半。外も明るくなってきました。
あとは11時過ぎまで時間を潰すだけです。
基本は、ソシャゲなどぼちぼちして待ちます。

いつの間にか免税店も開いていたので、友人への土産の酒を買ったりします。荷物はゲートを通過した後で受け取ります。もうゲートを通過する気まんまんです（いや通過できなきゃ困るだろ）。

羽田行きに搭乗できることの確認

引き続きヒマを潰します。

構内のこんな所をシャトルが通過するデトロイトは面白いと思ったとか、困っているらしい外人に声をかけられて「あなたはスペイン人ですか？タクシー乗り場はどちらだか知りませんか？」とか聞かれたので掲示板を探しつつ「あそこで聞くと良い」と言ったり。

…しかしスペイン人に間違えられたのは初めてだ。

そうこうするうち11時を回ったので、デルタ航空の係員（年配の女性）がカウンターに入りました。

さっそく「これに搭乗予定なのですが、この陰性証明書で日本に入国できますよね？」と確認を求めようとする「**エージェント**」にチェックして貰ったんですよね？それならOKですよ」とにこやかに言われます。エージェント？なんですか、それ…と一瞬思ってから「ああそうか、今のこの時期にアメリカ旅行になんかくるヤツなら、帰りの陰性証明書の取得は旅行代理店のバック（→P.39）などを依頼して済ませるのが普通であり、プロに頼まず**自力でやる馬鹿**（しかも失敗した馬鹿）なんてのはそうそういないのだな」と気がつきました（笑）。

「そんなものを頼んではいませんでした、実はラスベガスではこういうことがありまして」と



話すと「シアトルとアトランタはちゃんとしているんだけど、**他の空港**はねー」というありがたいお言葉をいただきました。

手にした陰性証明書については、ちら見したうえで「ああ大丈夫、大丈夫」という感じで OK をくれました。日本の様式のチェックの入った書類のプリントアウトだったからでしょうね。よし、ともあれこれでどうやら日本に帰れそうですよ！（大歓喜）

羽田行きの帰国便

11 時半過ぎに無事にゲートを通過して、免税品もワゴンで受け取ってから羽田行きデルタ航空 275 便に搭乗できました。やったあ…月曜の朝にエルビスサンドを食べてから、ほぼ丸 2 日間の迷走も、どうやらこれで終わりのようです。

デトロイトから羽田までは 13 時間もあるフライトなのですが、この便は行きと違ってガラガラであるので、どうやら労せずとも 1 人で 1 列 3 席を占有することで**横になって眠れる**ことができそうなため、むしろ行きの 9 時間よりも楽かもしれないな、とも思いました。

おまけに機体のランクも上で、モニタの設備も上等、かかっている映画のラインナップも多くて行きの機体では字幕版しかなかった映画に日本語吹き替えが入っていたり。これは思わぬ怪我の功名かもしれません。

そして定刻通り 11 月 24 日（水）の 12 時 20 分過ぎ（日本時間は翌日の午前 3 時 20 分過ぎ）に無事にデルタ航空 275 便は離陸しました。13 時間後には羽田です。

基本的には機内では何かを食べているか、寝るか、映画を観ているか、ソシャゲをぼちぼちやっているだけだったのでごく簡潔に済ませましょう。

まず水平飛行に入るなりの 13 時に昼食。チキンカレーはまずまず美味しかったのですが、ビリヤニのようなつけ合わせは薬臭くてイマイチでした。



食事が済んだら照明が落とされたので 14 時前には横になって爆睡していたのですが、15 時頃に気が付いたら立てておいたテーブルにスナックの詰め合わせが置かれていました。ありがたくいただきます。ぽりぽり。

食べて寝てから起きました。17 時半にコーヒーを所望しますが、ほどなく照明がついて夕食になりました。



2021 年 11 月 25 日（木） 帰国



18 時過ぎに夕食…と思ったら、出てきたのはチーズピザでした。ほかほか。うん、美味しいですね。

美味しいですが、メニュー的にこれは夕食でなく朝食であると思えたので、時刻を確認したら日本時間の朝 8 時。

デトロイトからの羽田便は北極圏を突っ切って北海道から入る（表 4 参照）ので、あまり「日付変更線をまたいだ」という感じはないのですが、行程の半分は来ましたし、これはここで日付を切り替えるのが正解であると思えました。時計を日本時間に修正します（ここからは日本時間で記します）。あと 7 時間ほどで羽田空港です。またドルの財布を出国時の日本の財布と交換。

13 時半、ハンバーガーとフルーツの昼食。ほかほか。あとはジュースをいただきます。

そして何ごともなく 14 時 54 分に、デルタ航空 275 便は羽田に着陸しました。日本よ、私は帰ってきた！



入国前のチェック

すでに羽田の機内からスマホも使えるので、妻に連絡を入れたりツイッターでの帰国報告もしたものの厳密にはまだ「入国」できた状態ではなく、これから入国前のコロナ検疫をすべてクリアしなければなりません。すなわち最後の関門です。

ここではどんなことがあったかを機内を含めて簡潔に書いておこうと思います。

基本的には、ここまできたら一刻も早く我が家に帰りたいだけでもあったので、途中いちいち停まって記録を残したり写真を撮ったりはしませんでした。このため実施された順序なども、正確ではないと思います。正確な手順はたぶん厚労省のサイトのどこかにあると思うのですが。

機内で渡された宣誓書

帰国便の搭乗後に、いつもの課税申告書とは別に A4 コピーを数枚綴じた冊子が全員に渡されました。基本的には「全員これを熟読し、各種質問に同意したうえで宣誓にサインしてください」というものでした。これから到着後に受けることになる検疫の内容と、入国後に従うべきこと、帰宅してもその後 2 週間に渡って従うべきことなどが記されており、これに「同意」する必要があります。また資料として「ワクチン接種証明書の発行国・地域」とかいった表も付属しており、この記号を書く必要もある設問もありました。

もちろん全部熟読して適切に「はい」や「いいえ」を記入するしかありません。

降機チェック

到着後に機内で 20 分くらい待たされました。やがて「現在、検疫所から降機の許可を待っております」というアナウンスが入りました。なるほど。検疫で大勢待たされて混雑や行列ができてデメリットしかないから、降機の時点で絞っているわけですね。

再度の国リスト

機から構内に向かう通路で、コピーの「ワクチン接種証明書の発行国・地域」の表が全員に手渡されました。「あ、これ機内で貰いましたよ」と言ったら「最新版です」とのこと。大変だなあ。

検査場への誘導

構内に入ると矢印のまま通路を割と長距離を徒歩移動して、いつもとは違うビルに移動します。往路と復路（チェックのクリア後イミグレへ）の間がテープで渡れないこととも関連するのでしょうか、途中のトイレがすべて「使用禁止」になっていたのが印象的でした。たとえばチェックをバックレてもどのみちこの先のイミグレは通過できない筈なのですが。



QRコードの確認

チェックは順番に各エリアが連続しており、ひとつのチェックをクリアしない限りはその先には進めない仕組みです。

まずは「QRコード」の確認です。これは厚労省のサイトの問診にちゃんと答えて個人情報も登録していれば発行されるものです（→P.41）。基本的には通過する際に係員にスマホの画面を見せ「ピッ」と読み込まれれば終了です。

宣誓書の手交

機内で配られた宣誓書の確認です。入国に不適切な回答をしているわけでもなければ、基本的にすべての回答と、最後の署名にサインが入っているかどうかを確認します。職員が確認し必要に応じて「あ、ここにもサインをお願いします」とかいうものに素直に応じれば終了です。

スマホの設定確認

帰国者は自分のスマホ（Android/iPhone）に対し厚生省のアプリ「入国者健康居所確認アプリ（MySOS）」をインストールすることが必須なので、その確認を求められます。職員がアプリのインストールは勿論のこと、画面を開いて氏名やパスポート情報が入力されているか、待機場所としての自宅住所などの確認と通信確認が行われます。これは翌日からの2週間、自宅塾居中に連絡がかかってきたら、それに応じて自分の動画を撮影したり、問診や現在地を送信する必要があります。Bluetooth もオンにする必要があります。

「スマホ持ってません」という人は、ここで国からレンタルして一時所持する必要があります（費用は本人持ち）。それで逃れられるほど甘くありません。

メールアドレスの登録と確認も行いました。

また「Google Map」に対してインストールと、コントロールパネルで「位置情報」を送信しているかなどのチェックも行われました。他にもチェックがあったような気がします。

正直なところ「職員の方々も大変だなあ」と思いました。

書類審査の完了

他のチェックのうえで、接種証明書・陰性証明書のチェックを行いました。

これをクリアしたので、どうやら書類審査は終わりのようでした。検疫所のハンコ入りの書類を受け取ります。（次ページ）

自分の受付番号は1125-0-0575。おそらくは本日（11月25日）の575人目の意味です。

☐ R ☐ B ☐ Ship ☐ Diplomat ☐ SOFA ☐ () ☐ レベル2 ☐ レベル3

(1) 以下の() に該当するものがある。 はい (Yes) いいえ (No)

1125-0-0575



あなたは、該当する番号をすべて「○」で囲んでください。

以内に、発熱や咳などの症状がある人との接触があった。

以内に感染した患者と接触した。

以内に、発熱や咳などの症状があった。

ワクチン証明書あり

④ 現住、体調に異状がある。

異状がある場合の症状： ・発熱 ・咳 ・倦怠感 ・その他 ()

検査日 2021/11/25

受付番号 0575

検査項目 COVID19抗体 (判定) 陽性

結果値 (-)

薬・痛み止めなどを使用している。

下の地域に滞在していた。 はい (Yes) いいえ (No)

あなたは、その滞在地域をすべて「○」で囲んでください

特に流行している地域 (注)	
アジア	インド、インドネシア、カンボジア、スリランカ、タイ、ネパール、パキスタン、バングラデシュ、東ティモール、フィリピン、ブータン、マレーシア、ミャンマー、モルディブ、モンゴル
ヨーロッパ	アイスランド、アイルランド、アゼルバイジャン、アルバニア、アルメニア、アンドラ、イタリア、ウクライナ、ウズベキスタン、英国、エストニア、オーストリア、オランダ、カザフスタン、北マケドニア、キプロス、ギリシャ、キルギス、クロアチア、コソボ、サンマリノ、ジョージア、スイス、スウェーデン、スペイン、スロバキア、スロベニア、セルビア、タジキスタン、チェコ、デンマーク、ドイツ、ノルウェー、バチカン、ハンガリー、フィンランド、フランス、ブルガリア、ベラルーシ、ベルギー、ポーランド、ボスニア・ヘルツェゴビナ、ポルトガル、マルタ、モナコ、モルドバ、モンテネグロ、ラトビア、リトアニア、リヒテンシュタイン、ルーマニア、ルクセンブルク、ロシア、
中東	アフガニスタン、アラブ首長国連邦、イスラエル、イラク、イラン、オマーン、カタール、クウェート、サウジアラビア、トルコ、バーレーン、パレスチナ、ヨルダン、レバノン
アフリカ	アルジェリア、エジプト、エスワティニ、エチオピア、ガーナ、カーボベルデ、ガボン、カメルーン、ガンビア、ギニア、ギニアビサウ、ケニア、コードジボワール、コモロ、コンゴ共和国、コンゴ民主共和国、サントメ・プリンシペ、ザンビア、シエラレオネ、ジブチ、ジンバブエ、スーダン、赤道ギニア、セーシェル、セネガル、ソマリア、中央アフリカ、チュニジア、ナイジェリア、ナミビア、ボツワナ、マダガスカル、マラウイ、南アフリカ、南スーダン、モーリタニア、モーリタニア、モロッコ、リビア、リベリア、ルワンダ、レソト、
北米	アメリカ合衆国、カナダ
中南米	アルゼンチン、アンティグア・バーブーダ、ウルグアイ、エクアドル、エルサルバドル、ガイアナ、キューバ、グアテマラ、グレナダ、コスタリカ、コロンビア、ジャマイカ、スリナム、セントクリストファー・ネイビス、セントビンセント及びグレナディーン諸島、セントルシア、トリニダード・トバゴ、ニカラグア、ハイチ、パナマ、バハマ、パラグアイ、バルバドス、ブラジル、ベネズエラ、ペルー、ボリビア、ホンジュラス、メキシコ
大洋州	フィジー

(注) 出入国管理及び難民認定法における入国制限対象地域

なお、本書面は、特定患者等の郵便等を用いて行う投票方法の特例に関する法律に基づく

特例郵便等投票の請求の際提示する書面となります。また、待機期間の証明書としても使用可能です。

入国日 令和 3 年 11 月 25 日
住所

氏名 山田 太郎

東京検疫所
東京空港検疫所支所

PCR 検査

すべてのスマホ設定と書類審査をクリアしたら待望のPCR 検査です。唾液の採取でした。漏斗と容器を手渡され「この容器のこの線まで、口のなかに貯めた唾液を入れてください」と言われたのでその通りにします。見せると「OK」が出たので封をして手渡して終了。ここまででトータル小一時間くらいだったでしょうか。

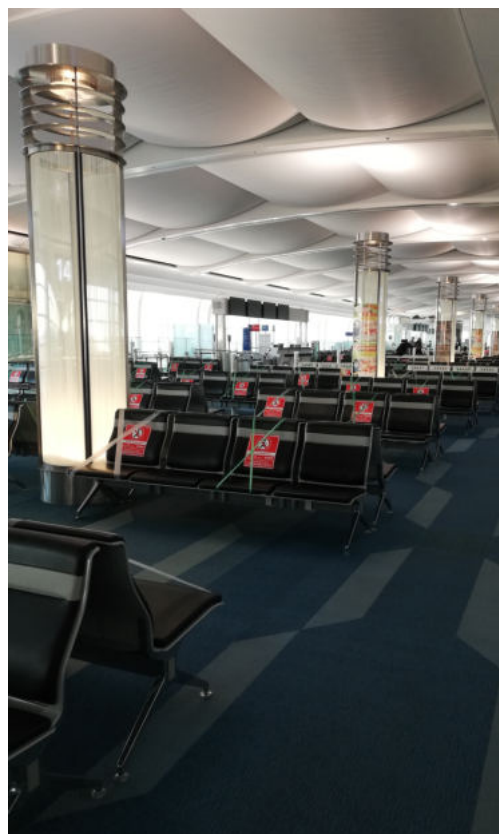
「検査では唾液を採取するので、上陸したらしばらくは食べ物飲み物などは口にしないでください」というような注意は受けなかったように思えます。

検査結果待ち

これであとは「検査結果陰性」が出れば解放されます。非常に広い待合室で待ちます。検査が完了すれば自分の番号の下4桁（自分は0575）が待合室のあちこちのモニタで表示されるので、そうしたら全部終了です。ここでは普通に自動販売機で飲み物を買ったりトイレに行ったりできるので、時間をつぶすだけです。

30 分くらい待ったでしょうか。自分の番号が表示されたので出口方向のデスクに向かい、先ほどの用紙を見せると「OK です」ということでピンクの用紙を渡されました（次頁）。

これを見せることでイミグレを通過できるようです。



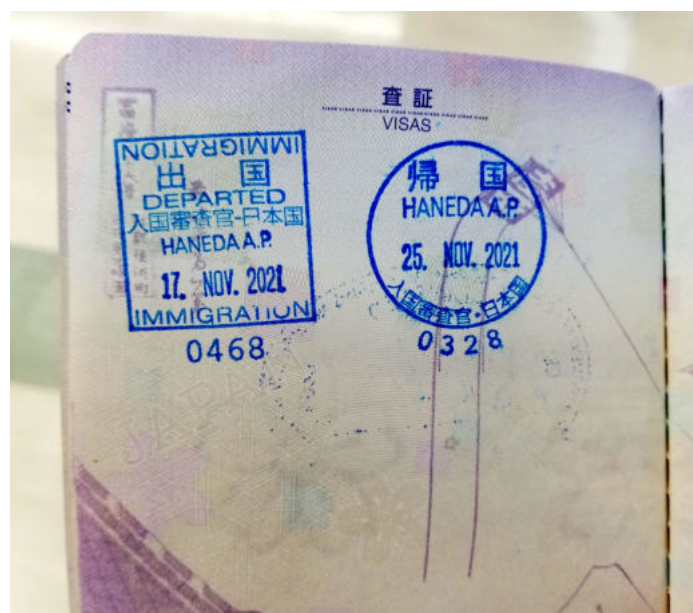


入国

ただちに、ここまで来た通路（→P.63）の反対側を通してイミグレへ向かいます。

イミグレではピンクの用紙を見せると係員は通してくれて、そのまま自動ゲートにパスポートをスキャンさせて入国できました。

記念なので受付に頼んでハンコを捺して貰いました。これでめでたく入国完了。



荷物回収

無事にイミグレを出たので、想定していた最後のトラップは「ラスベガスで預けた荷物が届いていない」くらいでしたが、あっさり出てきました。いささか拍子抜け。

ともあれ、機内で書いておいた税関申告書と一緒に税関を通過して終了。

帰宅

無事に羽田空港を出て、あとは懐かしの我が家に帰るだけです。空港を出ると目の前が京急のターミナル駅

ですが、今回は帰宅に際しては**公共交通機関の利用禁止**という規約があり、誓約書にサインをしたのでこれは守らなければなりません。

まあ、別に監視されてはいないでしょうけど（笑）。

「タクシーも利用が禁止」なので、ハイヤーを呼んで帰宅することにしました。「懐が痛んだ」意外は特に書きたいことはありません。



時計を見ると 16 時半。我が家に電話をして妻に帰宅の予定時刻を伝えた上、風呂と夕食、それに布団の準備を依頼しました。なにしろ月曜の朝（米国時間）にホテルを出てから、昼にドタバタしてから、えーと、63 時間くらいは今のこの服を着ていて、お風呂に入っていない計算になりますね（睡眠と食事は適当に取っていましたが）。早く帰りたい。

そして帰宅。おうちに帰るまでがイベントです。楽しくも疲れた丸 8 日間（予定より + 1 日）のラスベガス旅行も、ついに終了です。ああ、楽しかったあー！

もうちょっとだけ続くんやで。

帰宅後の報告義務

誓約に従い、帰国後は待機場所（通常は自宅）に14日間は待機し、外出は控えねばなりません。さらにこれは本書の執筆時の現在（12月3日）も行っていることですが、その期間中はスマホにインストールが義務付けられたMySOS（→P.64）を経由して厚労省が、毎日昼間のどこかで「現在地報告」「健康状態報告」「自撮り動画の撮影」を要求してきます。基本的には、一日中スマホの電源をオンにして待機し厚労省からメッセージや電話が来たら即座に応答しMySOSでぼちったり、動画撮影であれば自分がフレーム内におさまるように30秒スマホを構えて自撮りの必要があります。結果は厚労省のサーバに保存されている模様。うっかり一度、スマホの電源を落としていて応答をし損ねたときは次に起動したときに「警告：時間内応答がありませんでした。移動している疑いあり」とかいうメッセージが出て**やべえ！**と思いました。

実際に現在、厚労省のページに「入国時の誓約に違反した事例について」というページができており、この誓約に違反した（つまり送信や撮影を守らない）ひとは、ローマ字とはいえ**実名で7日間は晒される**ことが判明しています。うおお、そこまでやるか本気だな厚労省。

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000121431_00282.html

令和3年12月2日				
入国時の誓約に違反した事例について、以下のとおり、氏名及び感染拡大の防止に資する情報を公表します。				
厚生労働大臣				
氏名	出発国（※）	年代	住所又は居所	入国後の行動歴等
1 OSUGI	オランダ	20代	東京都	令和3年11月21日オランダから成田空港に到着し入国。空港での入国時検査は陰性。令和3年11月22日以降の自宅待機（登録されている待機場所は東京都）の期間中、健康状態の報告、位置情報の報告及びビデオ通話への応答が一度もなかった。
2 HAYASHI	オランダ	30代	大阪府	令和3年11月21日オランダから成田空港に到着し入国。空港での入国時検査は陰性。令和3年11月22日以降の自宅待機（登録されている待機場所は東京都）の期間中、健康状態の報告、位置情報の報告及びビデオ通話への応答が一度もなかった。
3 KOBAYASHI	アメリカ	50代	東京都	令和3年11月21日アメリカから羽田空港に到着し入国。空港での入国時検査は陰性。令和3年11月22日以降の自宅待機（登録されている待機場所は東京都）の期間中、健康状態の報告、位置情報の報告及びビデオ通話への応答が一度もなかった。
4 NISHIYAMA	アメリカ	30代	佐賀県	令和3年11月22日アメリカから羽田空港に到着し入国。空港での入国時検査は陰性。令和3年11月23日以降の自宅待機（登録されている待機場所は北海道）の期間中、健康状態の報告、位置情報の報告及びビデオ通話への応答が一度もなかった。

まあ現在は「最初から完全にバックれない限りセーフ」のようですが、とりあえず、おとなしく誓約を守って自宅でおとなしくしていることにしましょう…。

エピローグ

本書で記したように、自分がシアトルで帰国し損ねた決定的な理由は、UMC の検査が日本で認可された採取検体方式ではなかったというものですが（→P.46～48）、それに先立つ理由は自分が前日に UMC で受けた検査の陰性証明書を即座にスマホで提示できなかったことでした。

そして帰国後にパスワードのリセットなどをして UMC の陰性証明書をダウンロードして気が付いたのですが（次ページ）、これは Discovery Health で発行した（→P.53）のと同じ日本での書式の陰性証明書であり、問題の「採取検体」の欄は日本で NG とされた Nasal（鼻腔ぬぐい）ではなくて日本でも OK の Nasopharyngeal（鼻咽喉ぬぐい液）にチェックが入っていました。えっ、それって一体どういうこと…？

しげしげ考えた結果、これは「UMC が電話口で何か勘違いした」か、あるいは「UMC が日本向けの書類にチェックをする際に採取検体の欄に Nasal がなかったことから、おそらく一番近い（？）Nasopharyngeal に**適当に**チェックを入れた」のどちらかではないかとは思いました。証拠はありませんが後者のような気がします（笑）。

ということは、いずれにせよ僕らにとっては Nasal と Nasopharyngeal の違いなんて正直どうでもいいと思える以上は、シアトルで自分がミスをして空港係員と UMC を電話で話させるような事態を招かずこの「Nasopharyngeal」にチェックの入った陰性証明書を提示できてさえいれば、何のトラブルもなく即座にそこで搭乗して帰国できたのではと思いました（笑）。



P.31 のクイズの答え：書類としてはどちらも OK です（ひどい引っ掛け問題だな！）

COVID-19 に関する検査証明
Certificate of Testing for COVID-19

交付年月日 2021/11/22
Date of issue

氏名 Kondo, [redacted] パスポート番号 [redacted]
Name [redacted] Passport No. [redacted]
国籍 Japanese 生年月日 05/11/1965 性別 Male
Nationality Japanese Date of Birth 05/11/1965 Sex Male

上記の者の COVID-19 に関する検査を行った結果、その結果は下記のとおりである。
よって、この証明を交付する。
This is to certify the following results which have been confirmed by testing
for COVID-19 conducted with the sample taken from the above-mentioned person.

採取検体 Sample (下記いずれかをチェック /Check one of the boxes below)	検査法 Testing Method for COVID-19 (下記いずれかをチェック/Check one of the boxes below)	結果 Result	①結果判明日 Test Result Date ②検体採取日時 Specimen Collection Date and Time	備考 Remarks
☒ 鼻咽頭ぬぐい液 Nasopharyngeal Swab	☒ 核酸増幅検査 (RT-PCR 法) Nucleic acid amplification test (RT-PCR)	☒ 陰性 Negative	① Date (yyyy / mm / dd) <u>2021 / 11 / 22</u>	
☐ 唾液 Saliva	☐ 核酸増幅検査 (LAMP 法) Nucleic acid amplification test (LAMP)	☐ 陽性 Positive → 入国不可 No entry into Japan	② Date (yyyy / mm / dd) <u>2021 / 11 / 22</u> Time <u>AM/PM</u> <u>16 : 40</u>	
☐ 鼻咽頭ぬぐい液と咽頭 ぬぐい液の混合 Nasopharyngeal and oropharyngeal swabs	☐ 核酸増幅検査 (TMA 法) Nucleic acid amplification test (TMA) ☐ 核酸増幅検査 (TRC 法) Nucleic acid amplification test (TRC) ☐ 核酸増幅検査 (Smart Amp 法) Nucleic acid amplification test (Smart Amp) ☐ 核酸増幅検査 (NEAR 法) Nucleic acid amplification test (NEAR) ☐ 次世代シーケンス法 Next generation sequence ☐ 抗原定量検査* Quantitative antigen test* (CLEIA/ECLEIA)			

* 抗原定性検査ではない。
Not a qualitative antigen test.

医療機関名 Name of Medical institution University Medical Center of Southern Nevada
住所 Address of the institution 1800 W Charleston Blvd Las Vegas, NV 89102
医師名 Signature by doctor [Signature]
David Wilson (Date 22, 2021 16:11 PST)



これをシアトルで提示できてさえいれば… (涙)。

損得計算

最後に、今回の帰国トラブルについて、筆者が次の2つの致命的なポイントの双方で失敗をせず回避できたら損をしなかったものをまとめます。まあ、ネタにはなったので収支はOK（笑）。

ICLabsの移転先を調べずに、コロナ検査してくれる場所（薬局）を探してしまった失敗。	2時間くらい薬局を探して無駄に歩き回った時間と体力。
	プレミアム・アウトレット・ノースへの若干のタクシー代。
	検査費も200ドルかからずに安上がりだった筈。シアトルで受理される日本向けの陰性証明書を発行して貰えた筈なので（過去に実績あり）、以後すべてのトラブルは回避できたはず（泣）。
	最大の損失は、順調であればICLabsの検査のあとで月曜の午後～深夜は引き続いて楽しいラスベガス観光に充てられたことでしょうか。
UMCの検査結果をスマホのローカルに保存しておらず、作成アカウントのパスワードを忘れていた失敗。	シアトルで無事に搭乗できていれば回避できていた以後すべて（泣）。具体的には以下の通り。
	まる24時間の帰国遅れによる体力、有休1日。リブック無料は本当に助かりました…。
	Discovery Healthへのタクシー代30ドル、検査代206ドル。
	シアトルとデトロイトのラウンジ代、33+33=66ドル。
	一日分の飲食費など。50ドルくらいでしょうか。

あとがき

「ラスベガス旅行記2021（コロナトラブル編）」、皆様お楽しみいただけましたでしょうか。本書は海外旅行が大好きな筆者が、どうしてもラスベガスに遊びに行きたくなったために自力で調べて渡米し、トラブルはあったものの何とか独力でクリアしたことを誇れる記録だとも思っていますが、どちらかと言えば「いちいちこんな馬鹿な失敗をやらかした」記録であるとは思っています。本書の記述を参考にすればたぶん同じミスをしなくなると思うものの、結論としては最初から**プロに頼め**と思いました（笑）。まあ後から笑い話で済む程度（深刻ではない）のトラブル話は自分でも面白いと思いますので、是非お楽しみいただければと思います。人類がいつかコロナを完全に克服して、以前のように誰でもこんな苦労なく海外旅行を楽しめる世界が戻ってくることを祈って、本書の執筆を終えたいと思います。

（完）

心配するな、地球は丸い♪

羽田からシアトル経由でラスベガスを往復するだけの予定が、陰性証明の不備で帰国便に搭乗できませんでした。このため急遽シアトルで再検査を行い、深夜のデトロイト行きを経由しての翌日の羽田便で帰国する事態になりました（詳しくは本文を参照）。



デトロイトはシアトルから東に4時間も飛ぶほぼアメリカ東海岸なので「なんでわざわざ日本に帰るためにそんな所まで遠回りするんだよぉ!」とも思ったのですが、実のところそれほどには遠回りではなかったのですね。ロサンゼルスなどとも大差ありません（日本との時差は東海岸だとさらに3時間あるのですが）。

僕らはいまだメルカトル図法で世界を考えてしまうのですが、その認識は時に改めなければならないなと思いました。

ラスベガス旅行記 2021 (コロナトラブル編)

発行：新小岩マジック <https://twitter.com/kondohi>

発行日：2021年12月30日

印刷所：日光企画

本書の文章や写真などの無断転載を禁じます